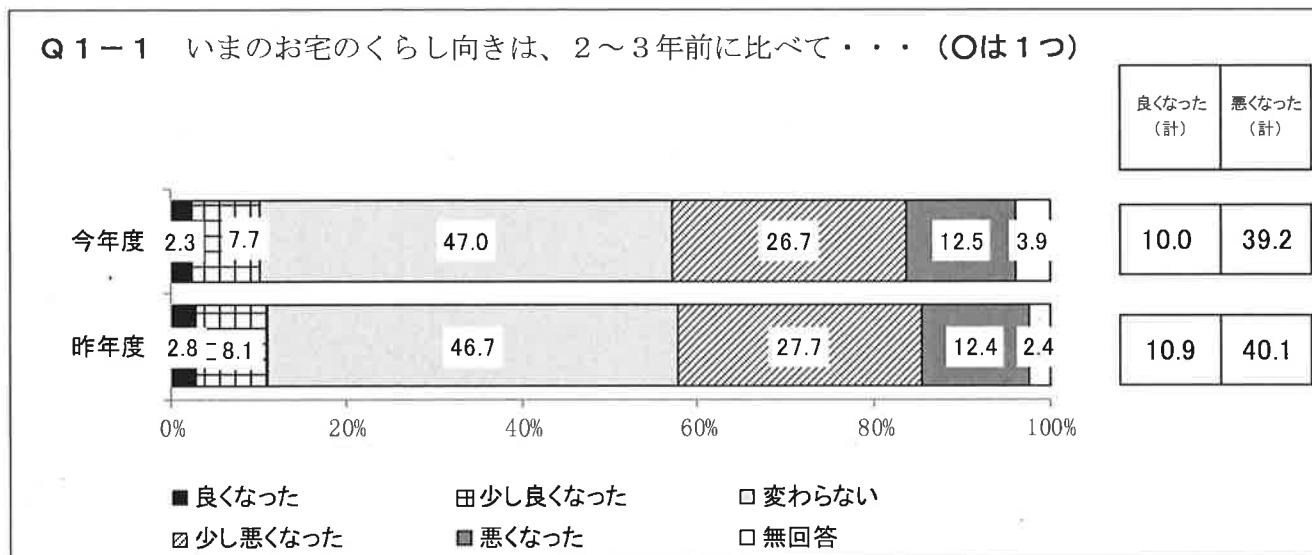


Ⅱ. 調査結果

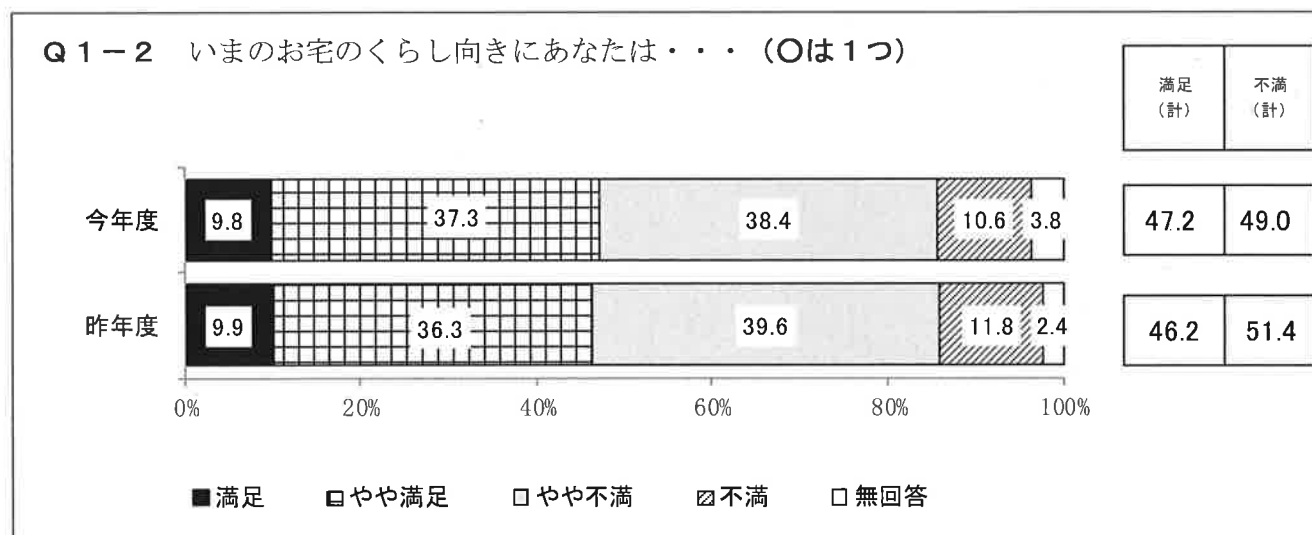
1. 県民の生活実感

1-1. 暮らし向きの変化



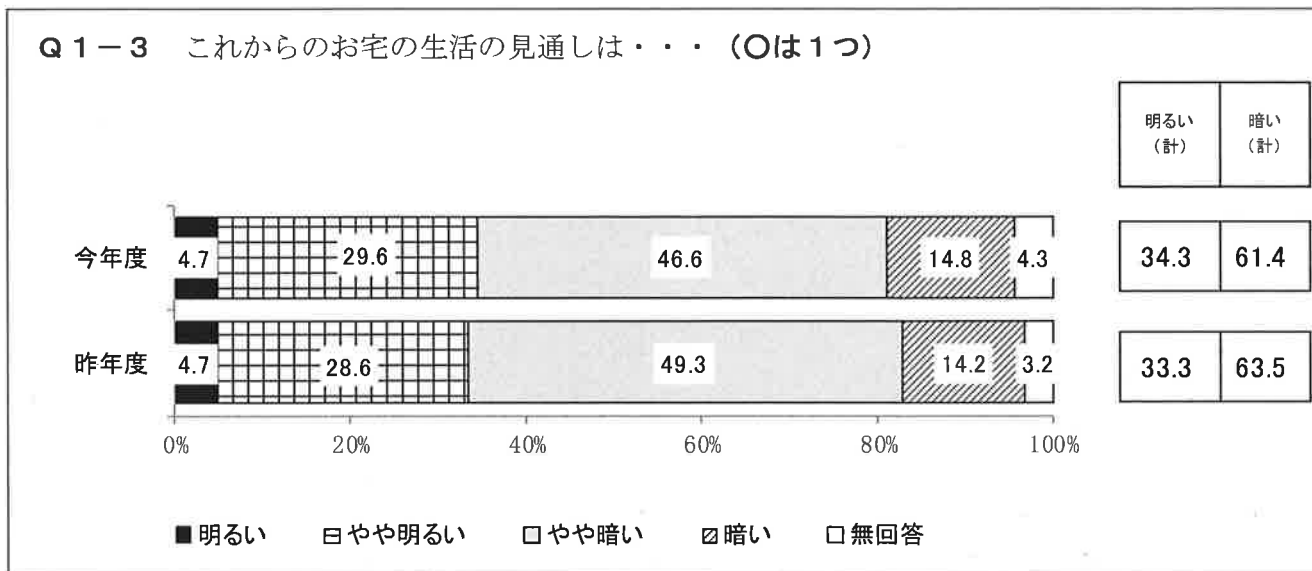
2～3年前に比べて暮らし向きは、「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた『良くなった(計)』は10.0%、「悪くなった」と「少し悪くなった」を合わせた『悪くなった(計)』は39.2%となっているが、「変わらない」が47.0%と最も高くなっている。昨年度と比較すると、大きな差はみられない。

1-2. 暮らしの満足度



現在の暮らし向きに関する満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足(計)』は47.2%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満(計)』は49.0%となっている。昨年度と比較すると、『不満(計)』は2.4ポイント低下している。

1-3. 今後の生活の見通し



今後の生活の見通しは、「明るい」と「やや明るい」を合わせた『明るい (計)』は34.3%、「暗い」と「やや暗い」を合わせた『暗い (計)』は61.4%と、暗い展望が上回っている。昨年度と比較すると、『暗い (計)』は2.1ポイント低下している。

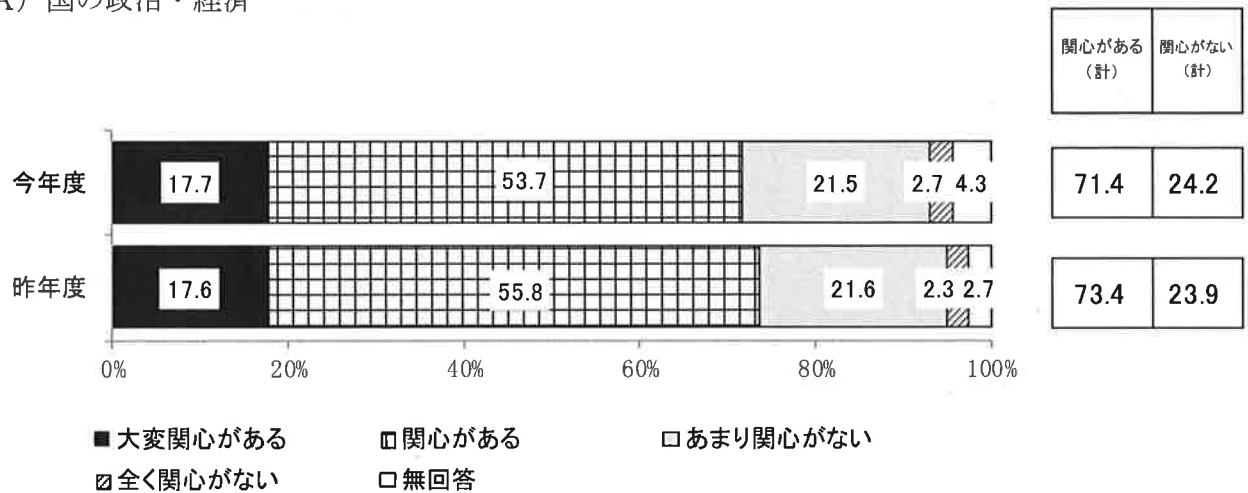
2. 政治や経済への関心

2-1. 国の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。

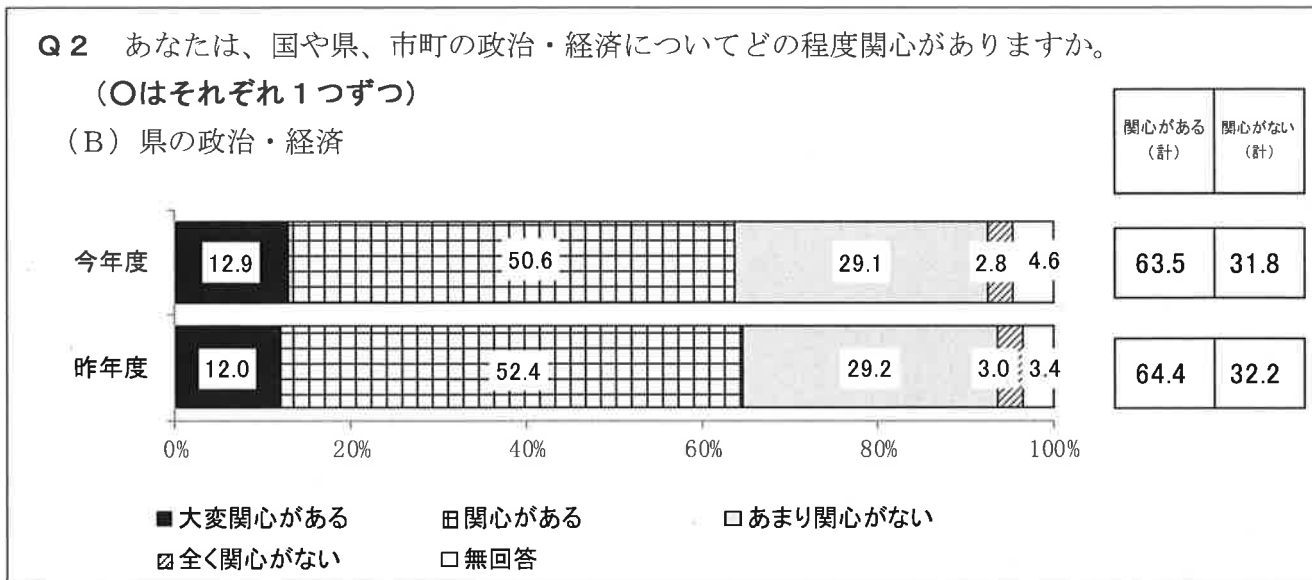
(○はそれぞれ1つずつ)

(A) 国の政治・経済



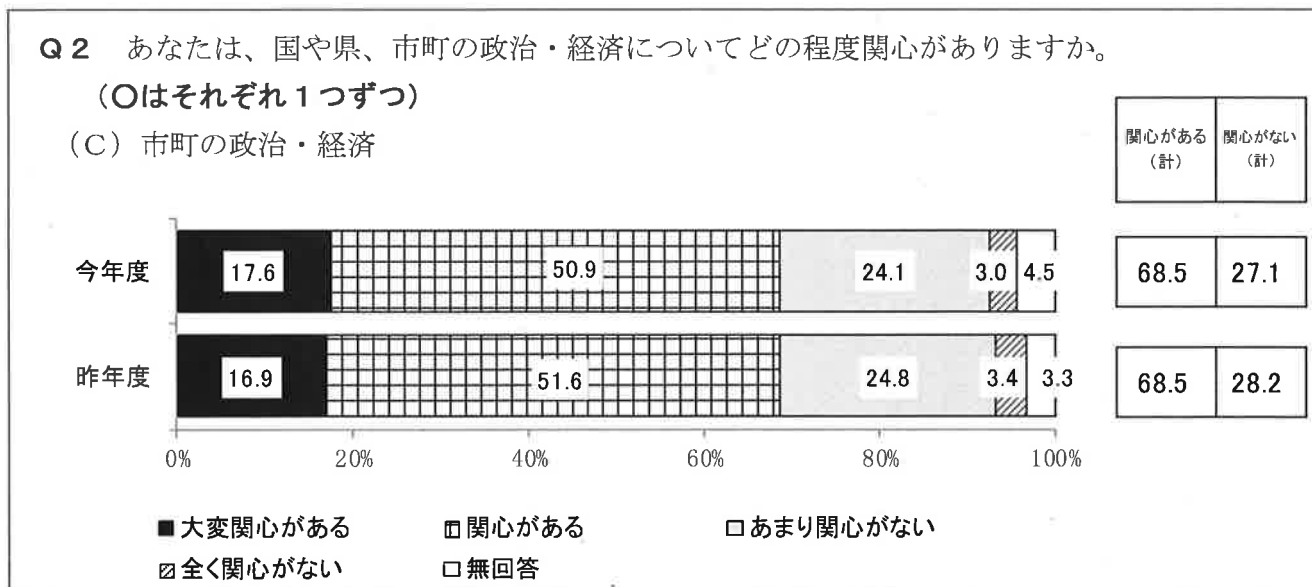
国の政治・経済に対する関心度は、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』は71.4%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』は24.2%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は2.0ポイント低下している。

2-2. 県の政治や経済への関心



県の政治・経済に対する関心度は、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』は63.5%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』は31.8%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、大きな差はみられない。

2-3. 市町の政治や経済への関心

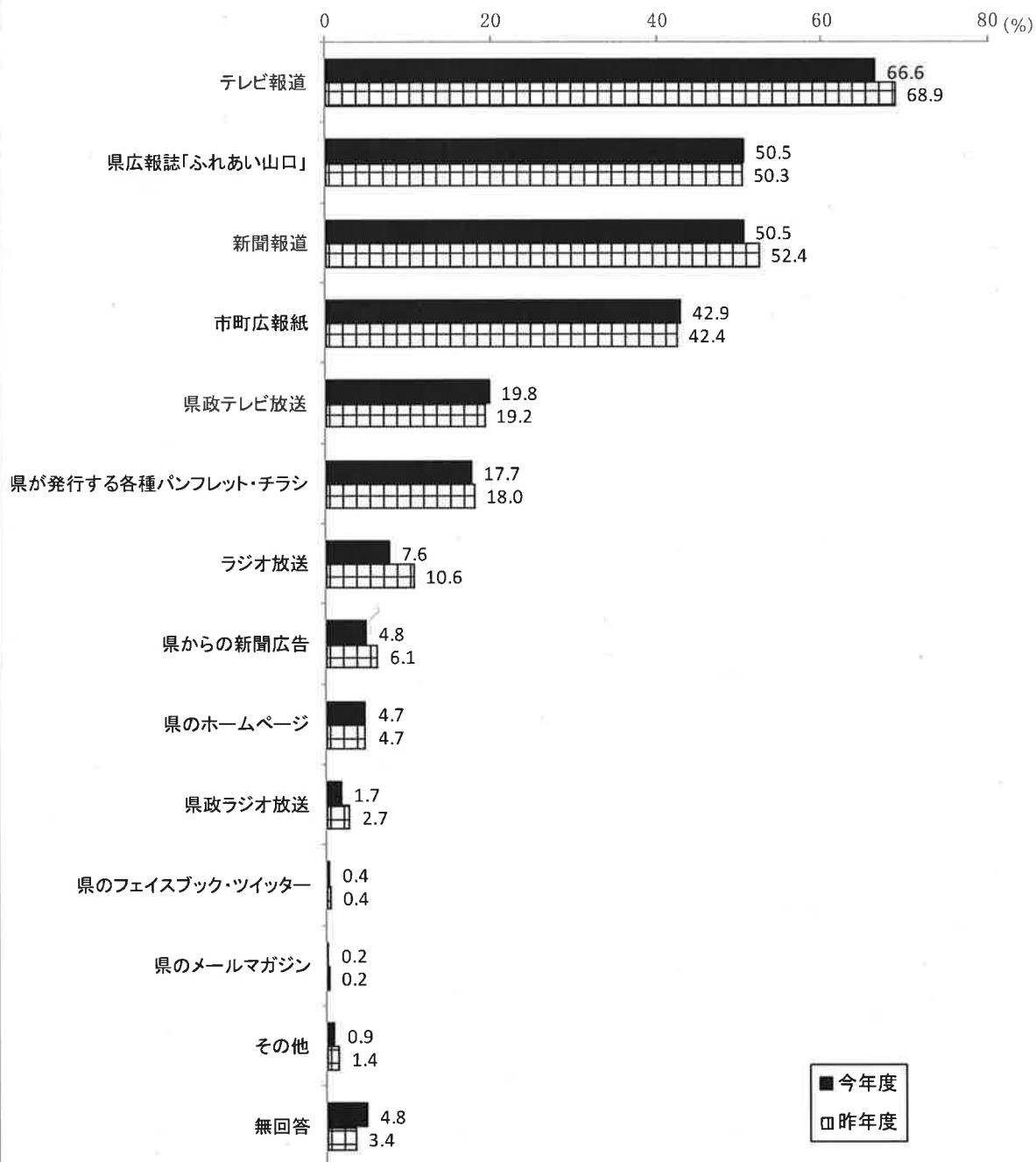


市町の政治・経済に対する関心度は、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』は68.5%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』は27.1%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、大きな差はみられない。

3. 県の行っている広報

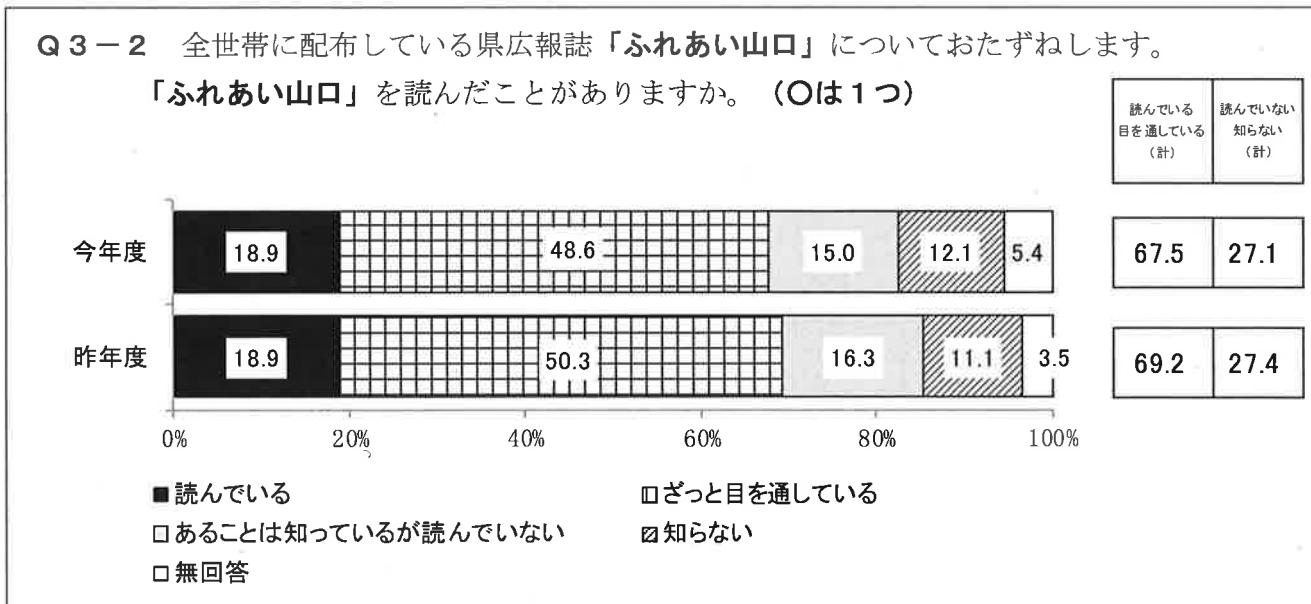
3-1. 県の仕事の認知媒体

Q3-1 あなたは日頃、県が行っている仕事などの県政情報を何によって知ることが多いですか。(〇はいくつでも)



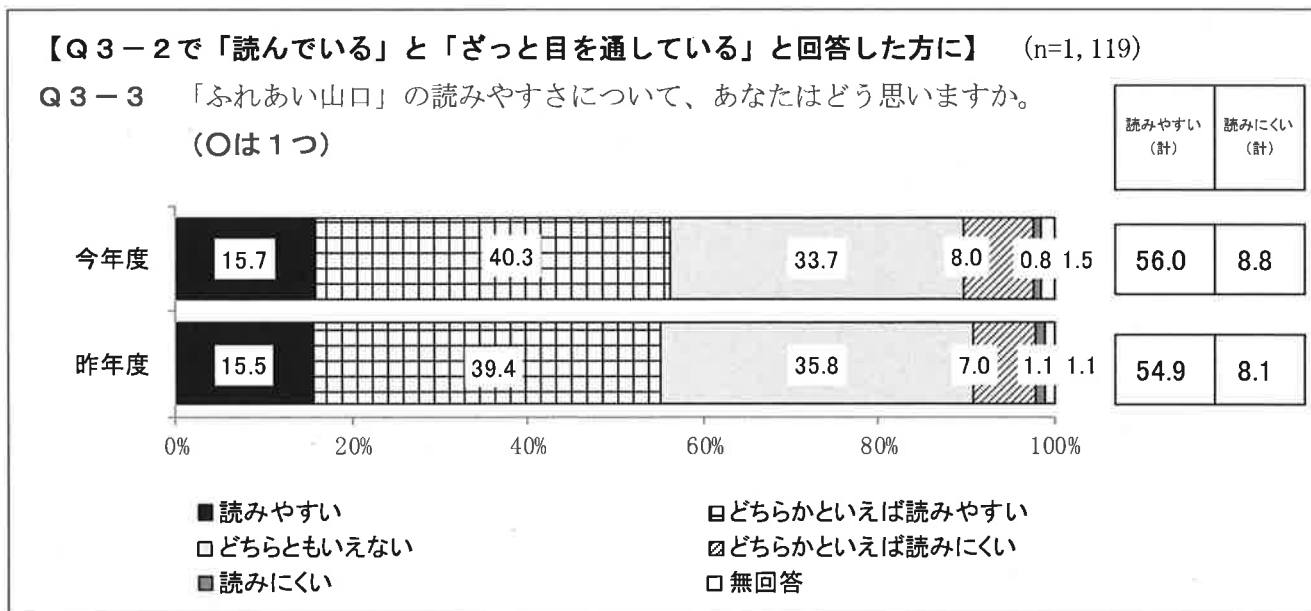
県の仕事の認知媒体としては、「テレビ報道」(66.6%)、「県広報誌『ふれあい山口』」「新聞報道」(各50.5%)が高く、次いで「市町広報紙」(42.9%)、「県政テレビ放送」(19.8%)、「県が発行する各種パンフレット・チラシ」(17.7%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「県政テレビ放送」は0.6ポイント、「市町広報紙」は0.5ポイント上昇している。

3-2. 「ふれあい山口」の閲読状況



県広報誌「ふれあい山口」の閲読状況は、「読んでいます」と「ざっと目を通している」を合わせた『読んでいます・目を通している (計)』は67.5%、「あることは知っているが読んでいない」と「知らない」を合わせた『読んでいない・知らない (計)』は27.1%となっている。昨年度と比較すると、『読んでいます・目を通している (計)』は1.7ポイント低下している。

3-3. 「ふれあい山口」の内容に対する評価



Q3-2で「ふれあい山口」を「読んでいます」と「ざっと目を通している」と回答された方に、「ふれあい山口」の読みやすさに対する評価について質問すると、「読みやすい」と「どちらかといえば読みやすい」を合わせた『読みやすい (計)』は56.0%、「読みにくい」と「どちらかといえば読みにくい」を合わせた『読みにくい (計)』は8.8%となっている。昨年度と比較すると、『読みやすい (計)』は1.1ポイント上昇している。

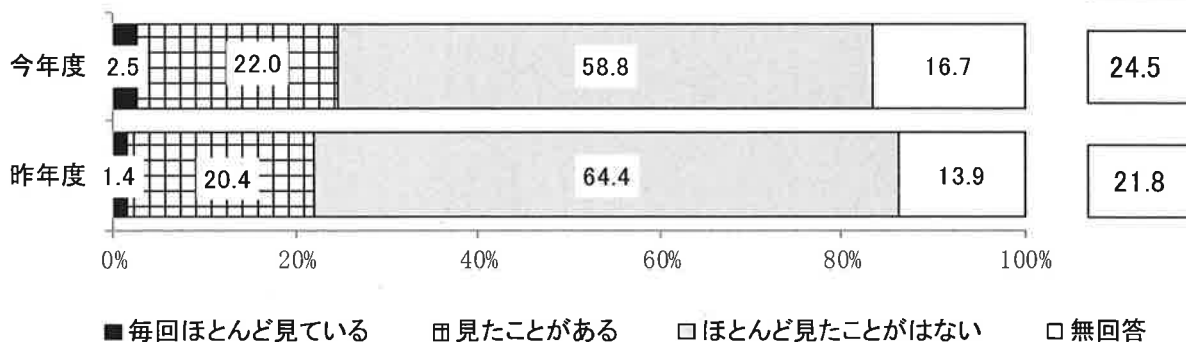
3-4. 各テレビ番組・各ラジオ番組の視聴（聴取）状況

Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

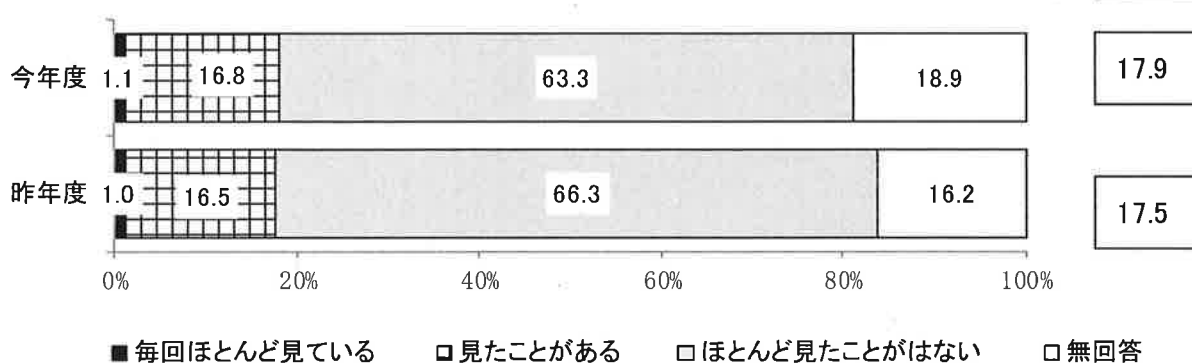
(1) 次の番組を視聴（または聴取）されたことがありますか。

1、2、3から選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

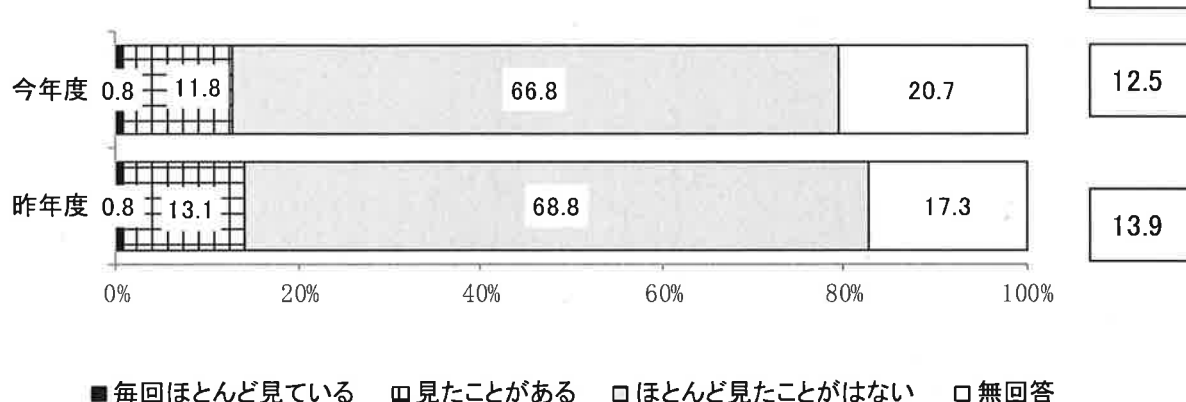
(ア) 「元気創出！やまぐち」（KRY山口放送）



(イ) 「大好き！やまぐち」（TYSテレビ山口）

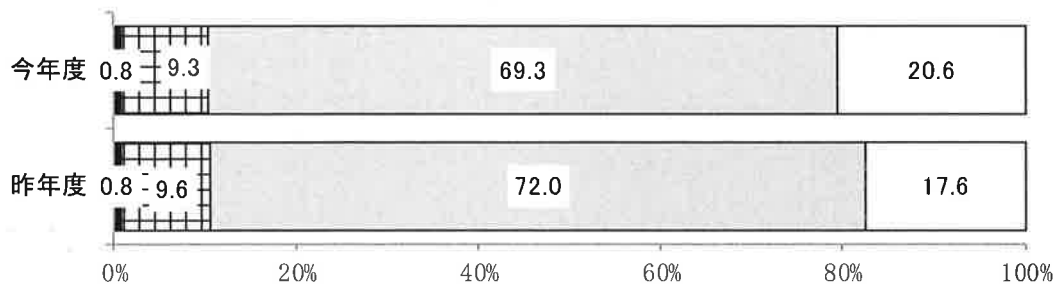


(ウ) 「イキイキ！山口」（YAB山口朝日放送）



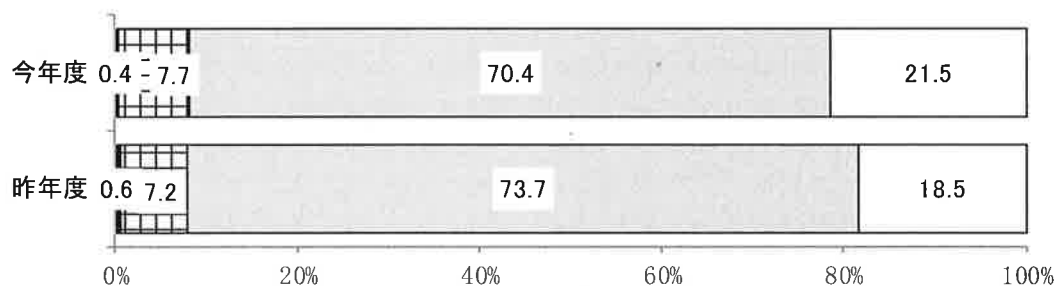
県が提供している県政テレビ番組の視聴状況について、「毎回ほとんど見ている」と「見たことがある」を合わせた『見ている・見たことがある(計)』は「元気創出！やまぐち」では24.5%、「大好き！やまぐち」では17.9%、「イキイキ！山口」では12.5%となっている。

(エ) 「ワンポイント県政」(KRY山口放送)



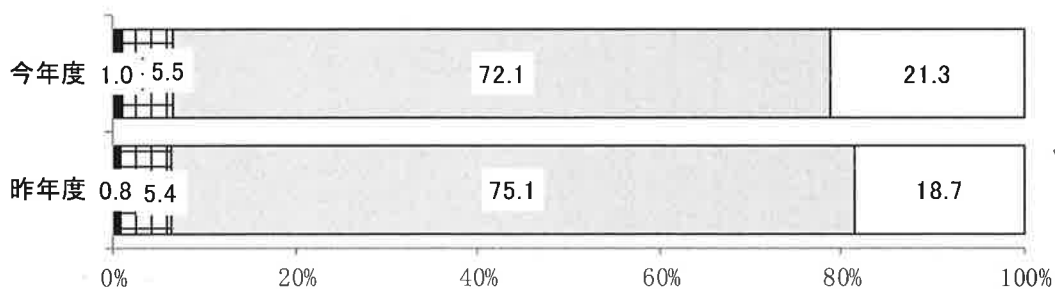
■ 毎回ほとんど聴いてる □ 聴いたことがある □ ほとんど聴いたことはない □ 無回答

(オ) 「FM県民ダイアリー」(エフエム山口)



■ 毎回ほとんど聴いてる □ 聴いたことがある □ ほとんど聴いたことはない □ 無回答

(カ) 「情報BOX山口」(エフエム山口)



■ 毎回ほとんど聴いてる □ 聴いたことがある □ ほとんど聴いたことはない □ 無回答

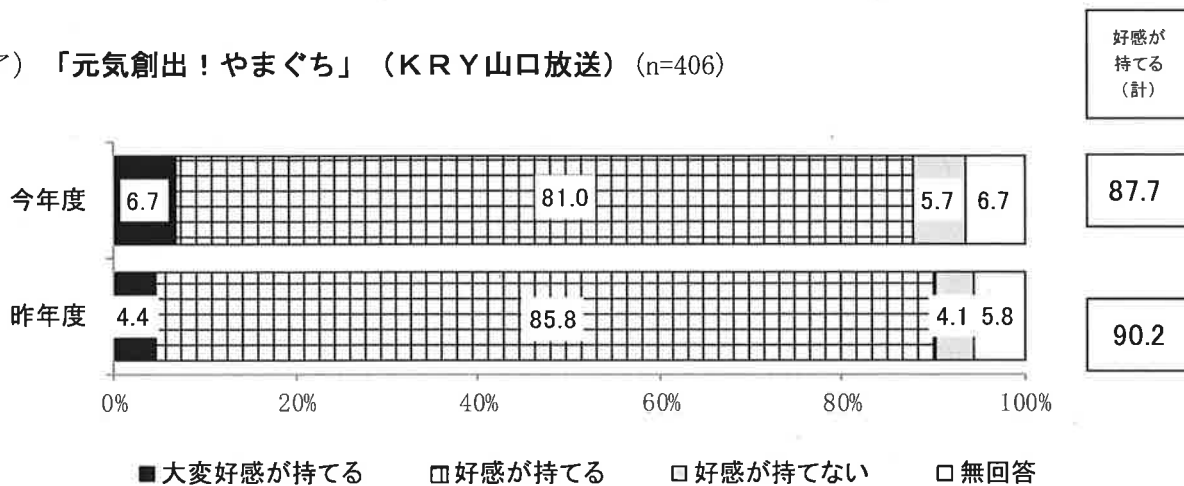
県が提供している県政ラジオ番組の聴取状況について、「毎回ほとんど聴いている」と「聴いたことがある」を合わせた『聴いている・聴いたことがある(計)』は、「ワンポイント県政」で0.3ポイント低下したが、その他の番組ではやや上昇している。

3-5. 各テレビ番組・各ラジオ番組の印象

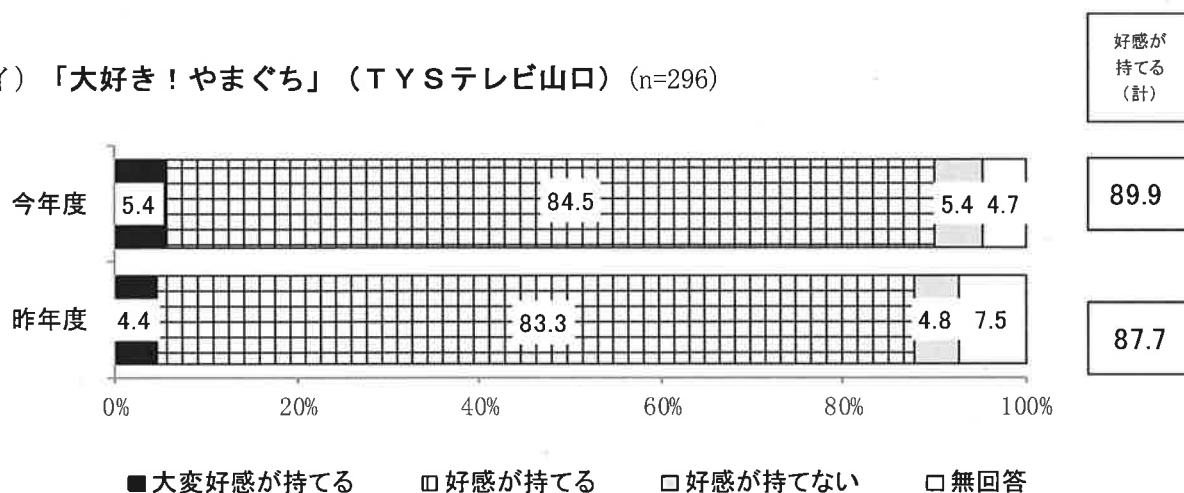
Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

(2) 視聴（または聴取）されたことがある場合は、その番組の印象を4、5、6から選んでください。（〇はそれぞれ1つずつ）

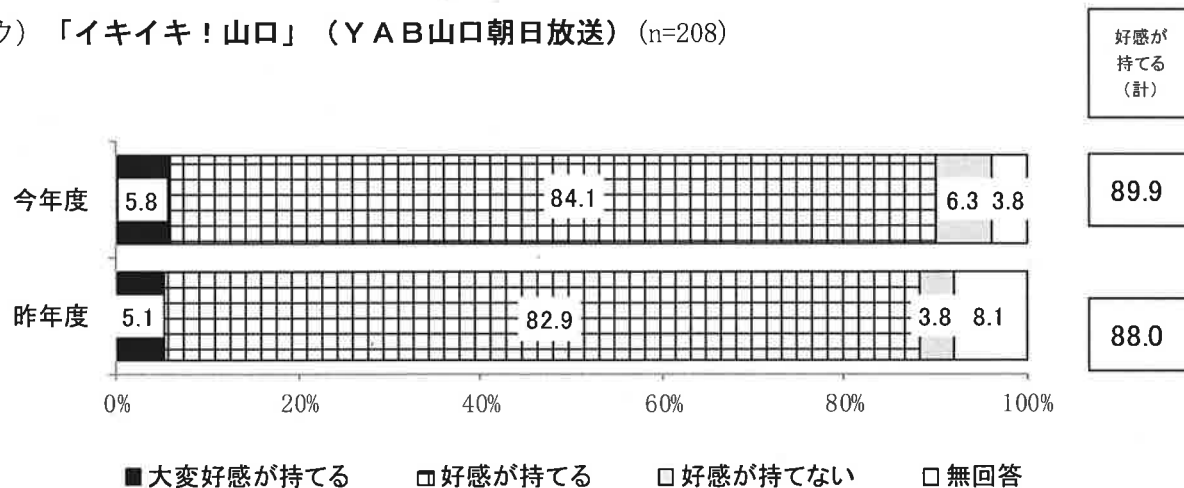
(ア) 「元気創出！やまぐち」（KRY山口放送）（n=406）



(イ) 「大好き！やまぐち」（TYSテレビ山口）（n=296）

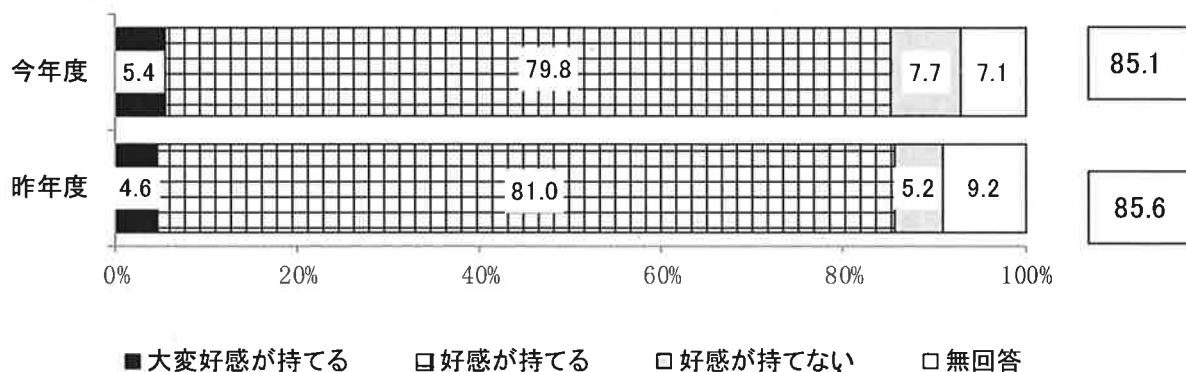


(ウ) 「イキイキ！山口」（YAB山口朝日放送）（n=208）

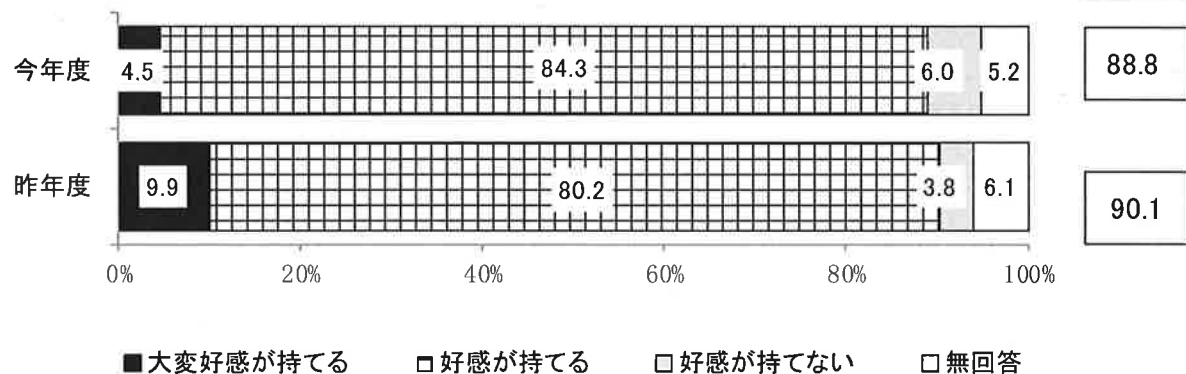


県が提供している県政テレビ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる(計)』は9割前後となっており、昨年度と比較すると、「元気創出！やまぐち」は2.5ポイント低下したが、その他の番組で好感度は上昇している。

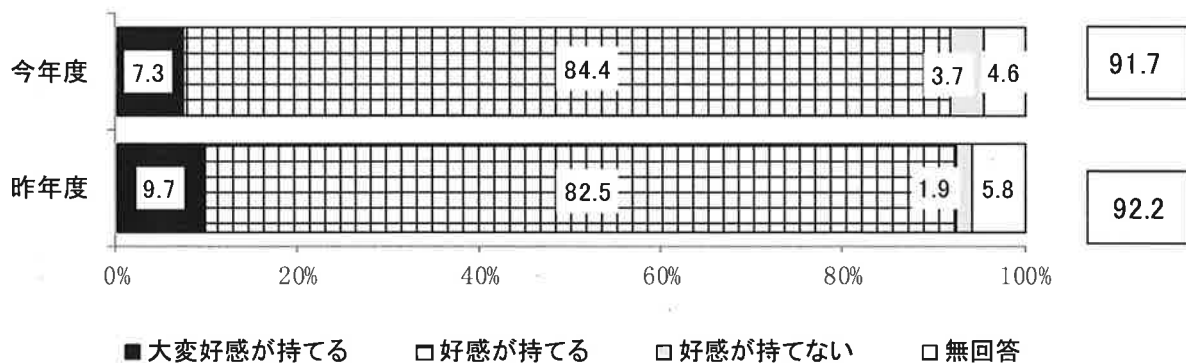
(エ) 「ワンポイント県政」(KRY山口放送) (n=168)



(オ) 「FM県民ダイアリー」(エフエム山口) (n=134)



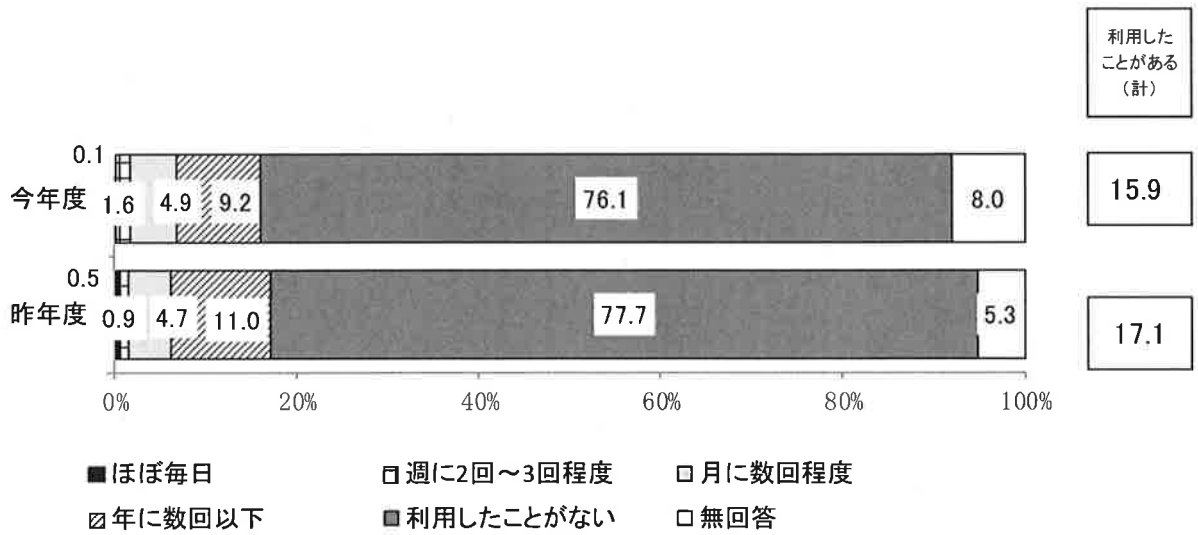
(カ) 「情報BOX山口」(エフエム山口) (n=109)



県が提供している県政ラジオ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』は、9割前後となっている。昨年度と比較すると、すべての番組で好感度は低下している。

3-6. 「山口県の公式ホームページ」の利用頻度

Q3-5 「山口県の公式ホームページ」を利用されますか。(〇は1つ)



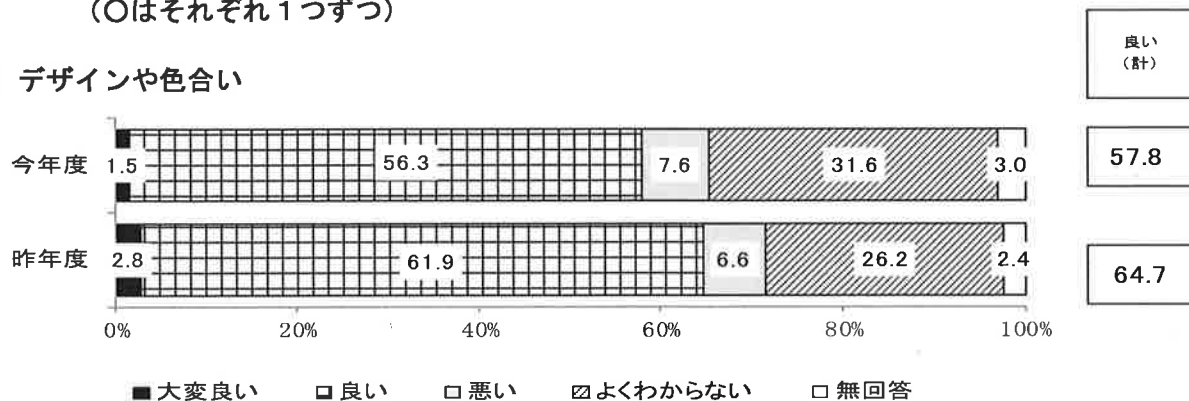
「山口県の公式ホームページ」の利用頻度について、「ほぼ毎日」、「週に2回～3回程度」、「月に数回程度」、「年に数回以下」を合わせた『利用したことがある(計)』は15.9%、「利用したことがない」は76.1%となっている。昨年度と比較すると、『利用したことがある(計)』は1.2ポイント低下している。

3-7. 「山口県の公式ホームページ」の印象

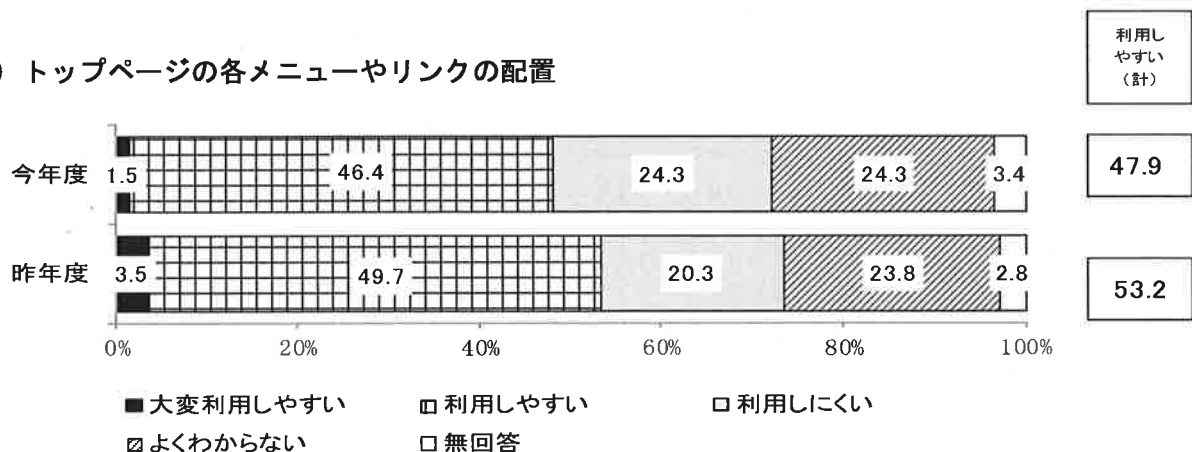
【Q3-5で利用したことがあると回答した方に】(n=263)

Q3-6 「山口県の公式ホームページ」を利用してみての印象を選んでください。
(○はそれぞれ1つずつ)

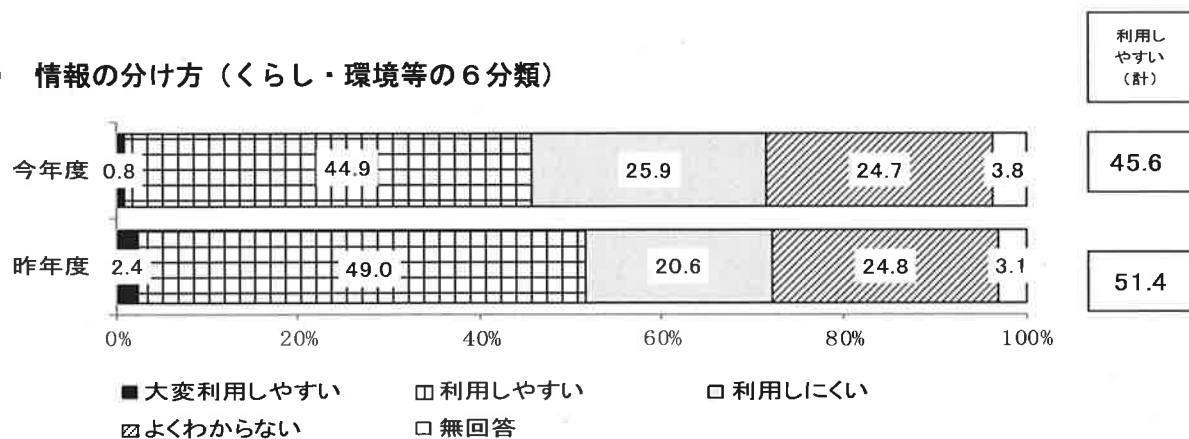
(1) デザインや色合い



(2) トップページ各メニューやリンクの配置



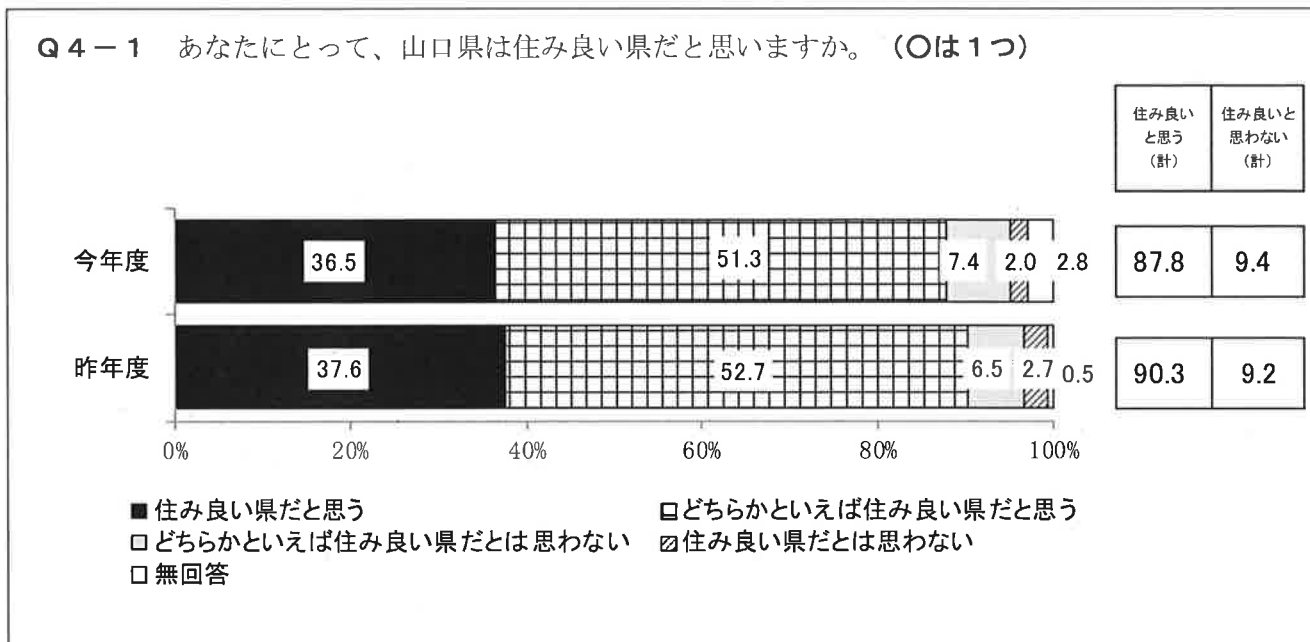
(3) 情報の分け方(暮らし・環境等の6分類)



「山口県の公式ホームページ」の印象について、デザインや色合いは、「大変良い」と「良い」を合わせた『良い(計)』は57.8%、「悪い」は7.6%となっている。トップページの各メニューやリンクの配置は、「大変利用しやすい」と「利用しやすい」を合わせた『利用しやすい(計)』は47.9%、「利用しにくい」は24.3%となっている。情報の分け方(暮らし・環境等の6分類)は、「大変利用しやすい」と「利用しやすい」を合わせた『利用しやすい(計)』は45.6%、「利用しにくい」は25.9%となっている。いずれの項目についても好評価の回答の割合が高くなっている。

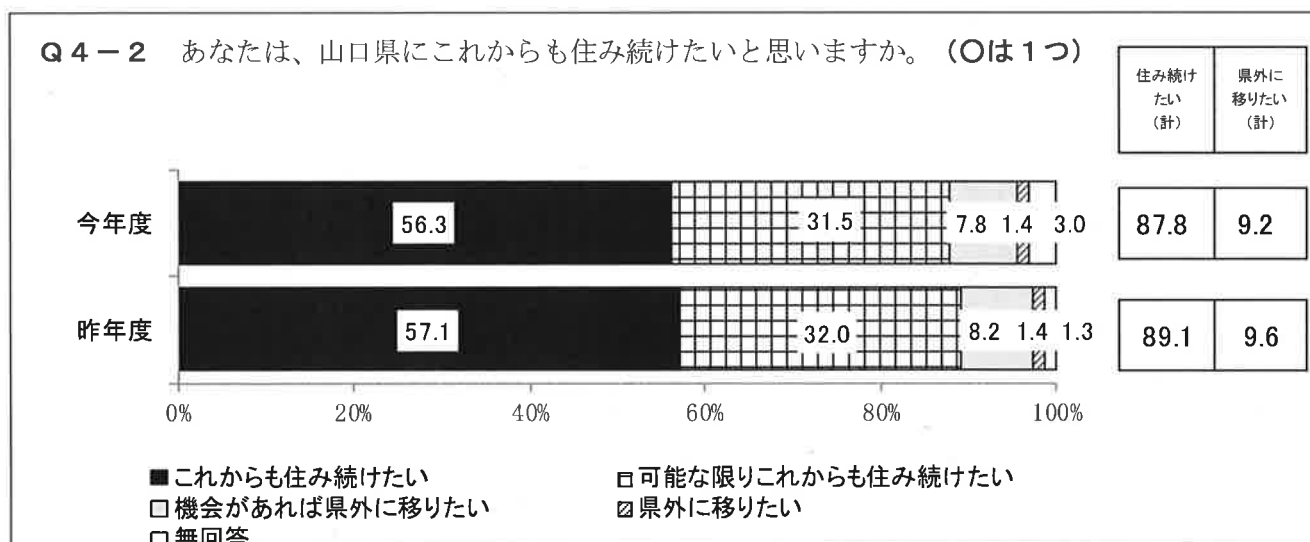
4. 県の取組に対する実感

4-1. 山口県の住み良さ



山口県の住み良さについて、「住み良い県だと思う」と「どちらかといえば住み良い県だと思う」を合わせた『住み良いと思う(計)』は87.8%、「住み良い県だとは思わない」と「どちらかといえば住み良い県だとは思わない」を合わせた『住み良いと思わない(計)』は9.4%となっているが、昨年度と比較すると、『住み良いと思う(計)』は2.5ポイント低下している。

4-2. 今後の山口県への居留意向

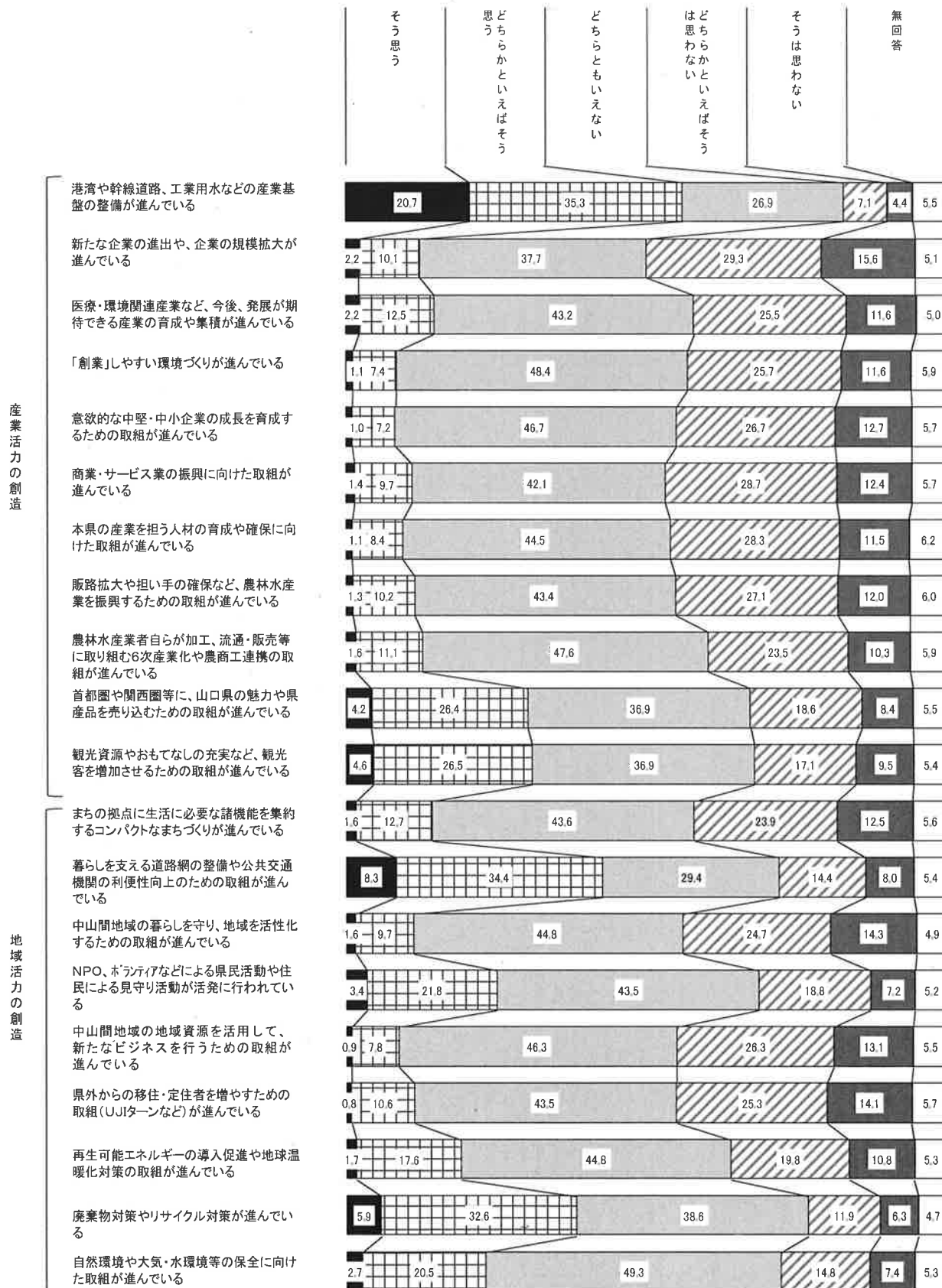


今後の山口県への居留意向について、「これからも住み続けたい」と「可能な限りこれからも住み続けたい」を合わせた『住み続けたい(計)』は87.8%、「県外に移りたい」と「機会があれば県外に移りたい」を合わせた『県外に移りたい(計)』は9.2%となっているが、昨年度と比較すると、『住み続けたい(計)』は1.3ポイント低下している。

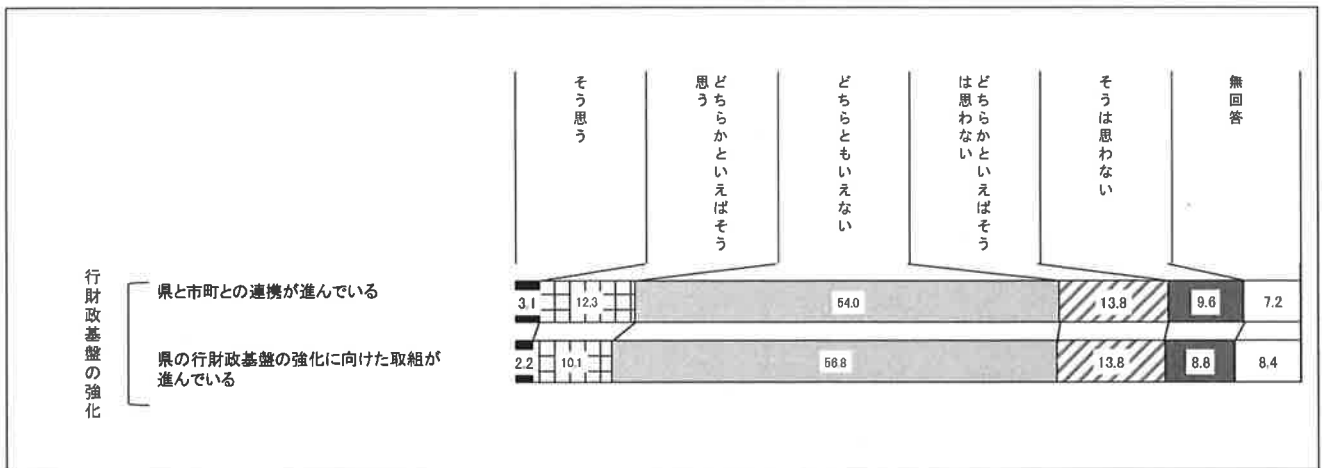
4-3. 県の取組に対する実感

Q4-3 次の各項目におけるあなたの実感についておたずねします。

いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そうは思わない	無回答		
人材活力の創造	結婚、妊娠・出産、子育ての希望を叶えるための支援が進んでいる	2.1	13.4	47.2	20.7	11.0	5.6	
	安心して子どもを生み育てるための周産期・小児医療体制の整備などが進んでいる	2.1	15.6	42.2	21.6	12.5	6.0	
	子どもたちの豊かな心の育成や、たくましい体づくりに向けた取組が進んでいる	2.5	17.0	49.2	17.6	7.5	6.3	
	子どもたちの学力向上に向けたきめ細かな学習指導ができる体制の整備が進んでいる	1.9	14.4	52.4	17.3	7.7	6.3	
	相談・支援体制の充実など、いじめ、不登校対策が進んでいる	2.1	11.5	53.1	17.9	9.2	6.2	
	特色ある学校づくりなど、学校の教育環境の整備が進んでいる	2.3	14.7	51.3	17.1	8.1	6.6	
	大学等による地域貢献活動や地域活性化の取組が進んでいる	1.4	12.5	49.6	18.8	10.9	6.8	
	一人ひとりの人権が尊重されている	3.1	22.6	50.5	11.0	6.8	6.0	
	男女が性別にかかわらず、個性や能力を發揮できる社会づくりが進んでいる	1.6	13.3	51.1	18.0	9.8	6.2	
	県民の暮らしを支える雇用の場の確保に向けた取組が進んでいる	0.8	10.3	47.0	22.7	13.1	6.2	
	高齢者などシニアが活躍することができる社会づくりが進んでいる	2.7	18.2	43.4	19.5	10.5	5.9	
	障害のある人が、障害の程度や特性等に応じて活躍することができる社会づくりが進んでいる	1.4	13.6	46.0	20.5	11.8	6.8	
	文化・芸術活動が盛んに行われている	3.8	23.2	43.7	15.1	7.8	6.3	
	スポーツ活動が盛んに行われている	4.9	29.0	42.8	11.8	5.5	6.0	
	安心・安全の確保	大雨、台風、地震などに対する防災・減災対策やインフラの老朽化対策が進んでいる	2.6	20.3	42.6	19.9	9.0	5.6
		学校やホテル・旅館、住宅など、建築物の耐震化が進んでいる	3.0	17.9	40.6	21.9	10.9	5.7
地域における防災活動や防災の担い手づくりに向けた取組が進んでいる		1.9	14.2	49.0	20.7	8.3	5.8	
地域において保健・医療サービスの提供を受けられる体制の整備が進んでいる		3.1	25.2	41.0	16.4	8.7	5.6	
医療や介護が必要になっても、高齢者が地域で安心して生活できる体制の整備が進んでいる。		1.8	17.2	42.3	20.8	12.6	5.3	
県民の健康づくりに向けた対策が進んでいる		3.1	18.9	50.5	14.8	7.0	5.8	
食や消費生活の安心・安全の確保に向けた対策が進んでいる		2.0	20.8	52.5	13.1	5.7	5.9	
犯罪や交通事故の防止に向けた対策が進んでいる		2.8	20.6	50.2	13.7	6.9	5.8	



県の取組に対する実感について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う（計）』の割合は、【産業活力の創造】分野の、「港湾や幹線道路、工業用水などの産業基盤の整備が進んでいる」（56.1%）、【地域活力の創造】分野の、「暮らしを支える道路網の整備や公共交通機関の利便性向上のための取組が進んでいる」（42.8%）で4割を超えている。

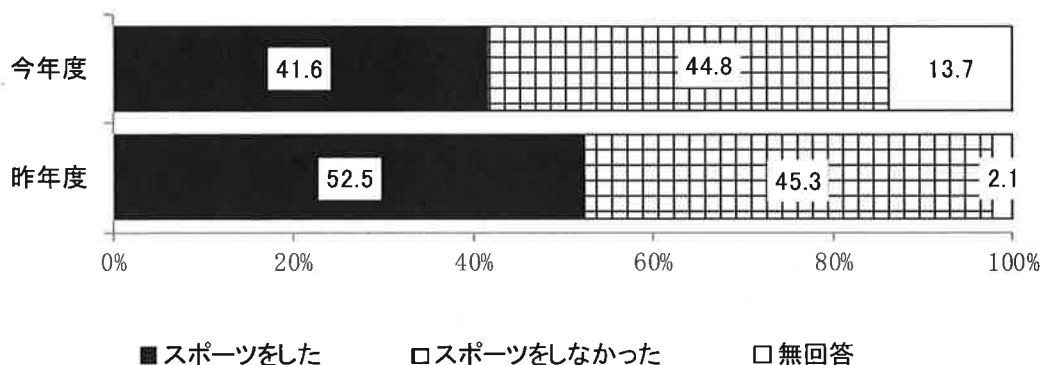
反対に、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『思わない（計）』の割合は、【産業活力の創造】分野の、「新たな企業の進出や、企業の規模拡大が進んでいる」（44.8%）、【商業・サービス業の振興に向けた取組が進んでいる」（41.1%）で4割を超えている。

5. スポーツ活動の実施状況

5-1. 過去1年間でのスポーツ実施状況

Q5-1 あなたは、過去1年間に、スポーツを行いましたか。(〇は1つ)

※「スポーツ」：陸上競技・水泳・野球・サッカー等の他、グラウンドゴルフ・インディアカ等のレクリエーションスポーツ、ハイキング・釣り等の野外活動及びウォーキング・軽い体操を含みます。

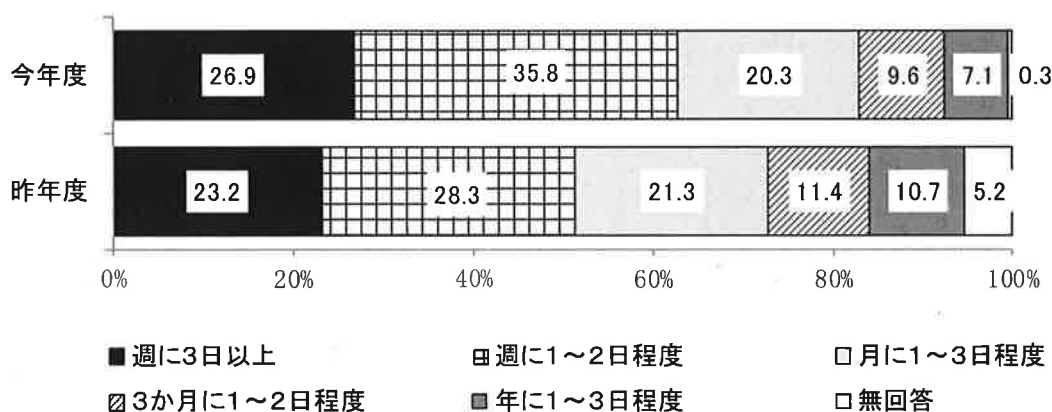


過去1年間でのスポーツ実施状況について、「スポーツをした」は41.6%、「スポーツはしなかった」は44.8%となっている。

5-2. スポーツ実施頻度

【Q5-1で「スポーツをした」と回答した方に】(n=689)

Q5-2 どれくらいの頻度でスポーツを行いましたか。(〇は1つ)

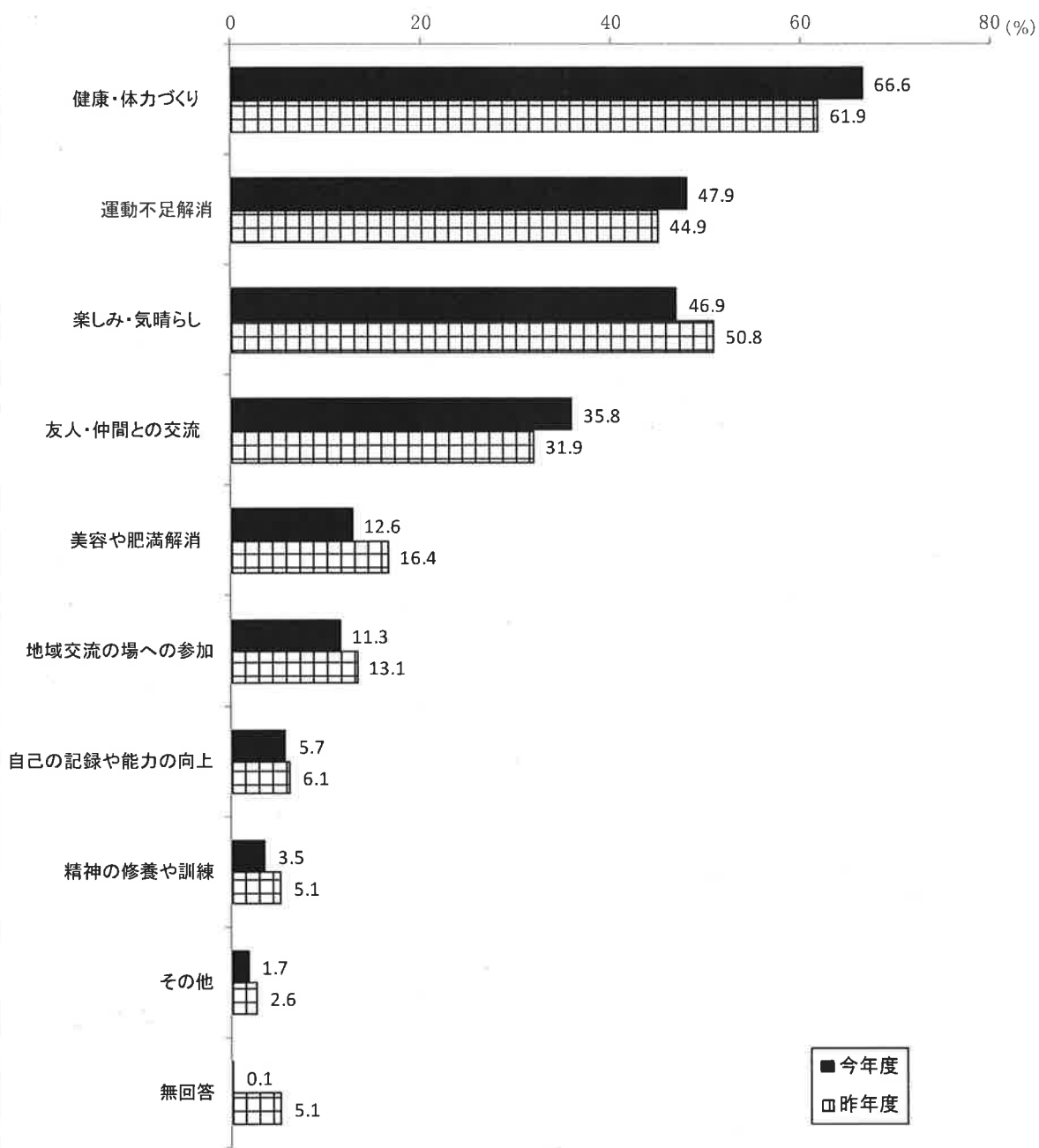


Q5-1で「スポーツをした」と回答された方に、スポーツ実施頻度について質問すると、「週に1~2日程度(年51~150日程度)」が35.8%と最も高く、次いで「週に3日以上(年150日を超える程度)」(26.9%)、「月に1~3日程度(年12~50日程度)」(20.3%)などの順となっている。

5-3. スポーツを行った理由

【Q5-1で「スポーツをした」と回答した方に】(n=689)

Q5-3 スポーツを行った理由は何ですか。(〇はいくつでも)

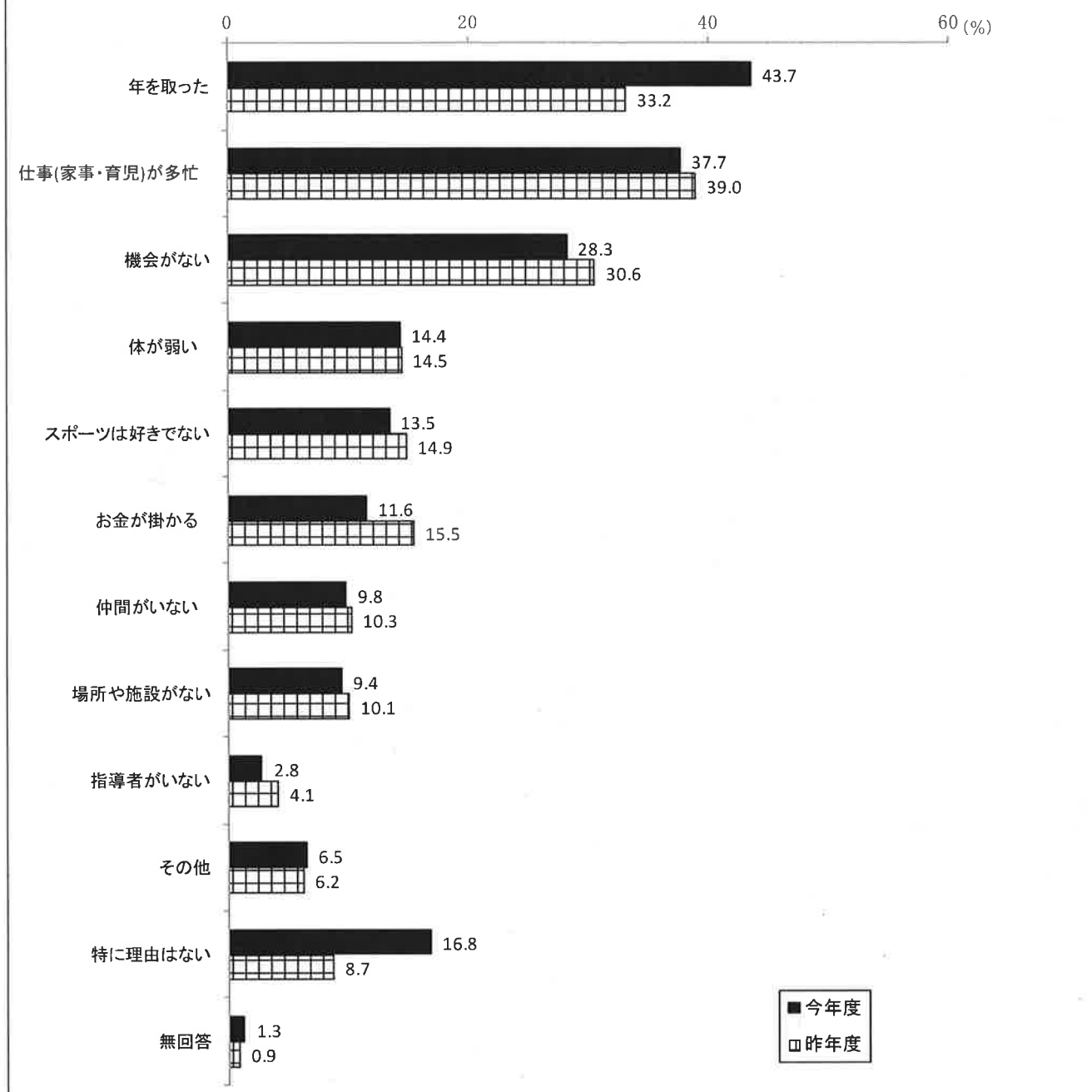


Q5-1で「スポーツをした」と回答された方に、スポーツを行った理由について質問すると、「健康・体づくり」が66.6%と最も高く、次いで「運動不足解消」(47.9%)、「楽しみ・気晴らし」(46.9%)、「友人・仲間との交流」(35.8%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「健康・体づくり」は4.7ポイント上昇している。

5-4. スポーツを行わなかった理由

【Q5-1で「スポーツはしなかった」と回答した方に】(n=742)

Q5-4 スポーツを行わなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)



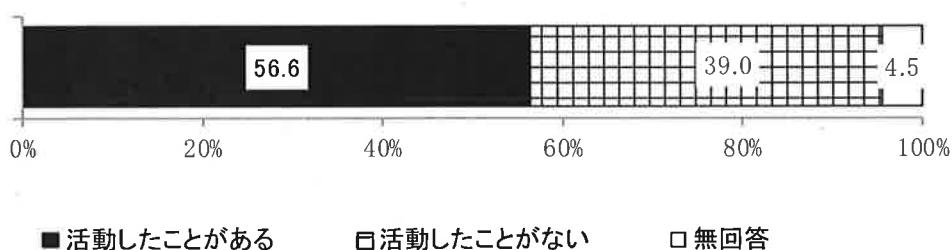
Q5-1で「スポーツはしなかった」と回答された方に、スポーツを行わなかった理由について質問すると、「年を取った」が43.7%で最も高く、次いで「仕事(家事・育児)が多忙」(37.7%)、「機会がない」(28.3%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「年を取った」は10.5ポイント上昇、「お金が掛かる」は3.9ポイント低下している。

6. 県民活動

「県民活動」とは、営利を目的としない県民の自主的・主体的な社会参加活動で不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを目的とする活動であり、活動の形態としては、コミュニティ活動(地域住民活動)、ボランティア活動(個人の自発的な意思に基づく活動)、NPO活動(一定の規模を備えた組織的な活動)をいいます。

6-1. 県民活動の経験

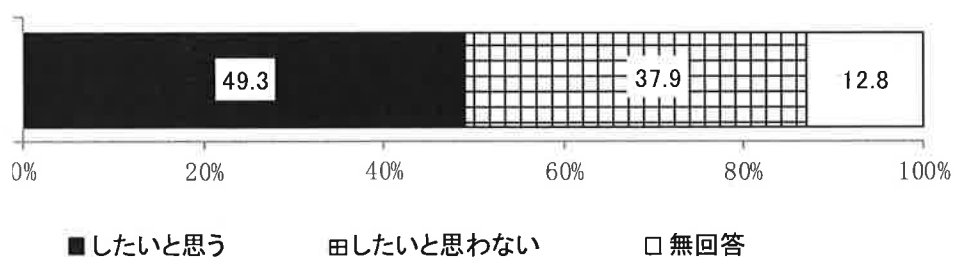
Q6-1 あなたは、地域の清掃やスポーツ行事、まちづくり、リサイクル、高齢者や障害者のための福祉、子育て支援など、仕事以外で地域や社会のために活動したことはありますか。
(〇は1つ)



地域や社会のために、「活動したことがある」は56.6%、「活動したことがない」は39.0%となっている。

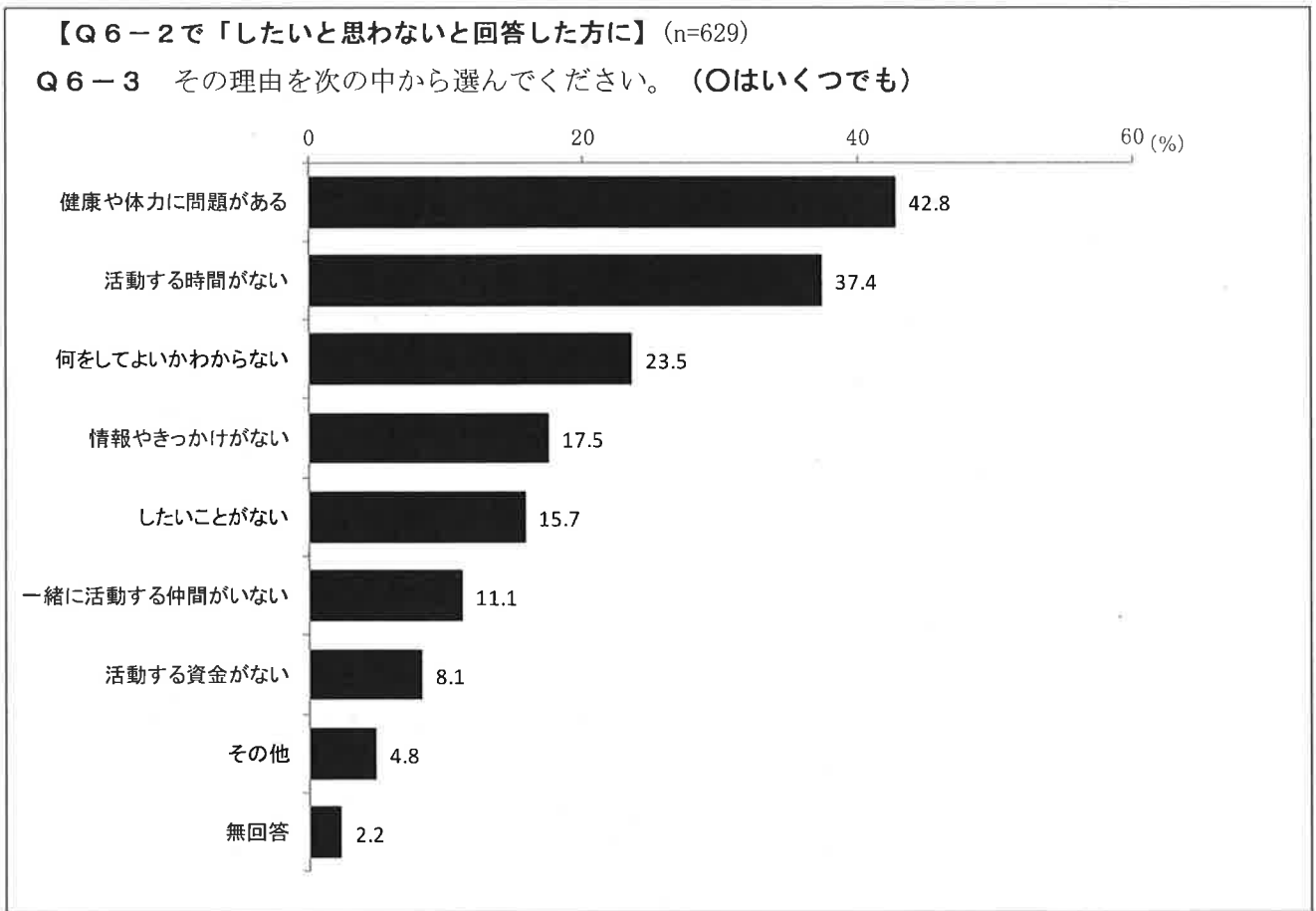
6-2. 県民活動への参加意向

Q6-2 あなたは、今後このような活動をしたいと思いませんか。
(〇は1つ)



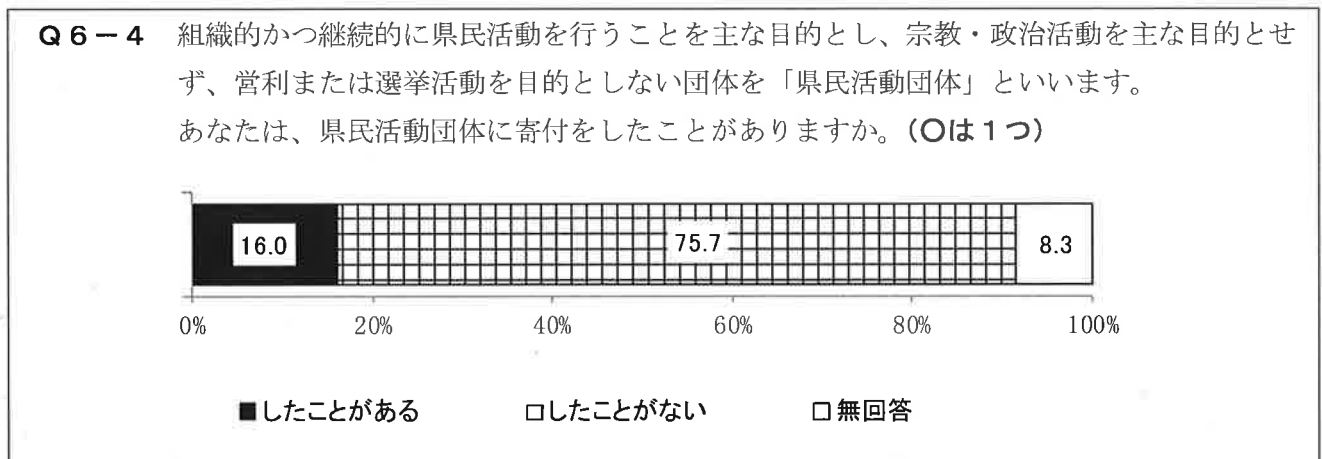
今後、このような活動を「したいと思う」は49.3%、「したいと思わない」は37.9%となっている。

6-3. 県民活動をしたくないと思わない理由



Q6-2で「したいと思わない」と回答された方に、活動へ参加したくない理由について質問すると、「健康や体力に問題がある」が42.8%と最も高く、次いで、「活動する時間がない」(37.4%)、「何をしてもよいかわからない」(23.5%)の順となっている。

6-4. 県民活動団体への寄付

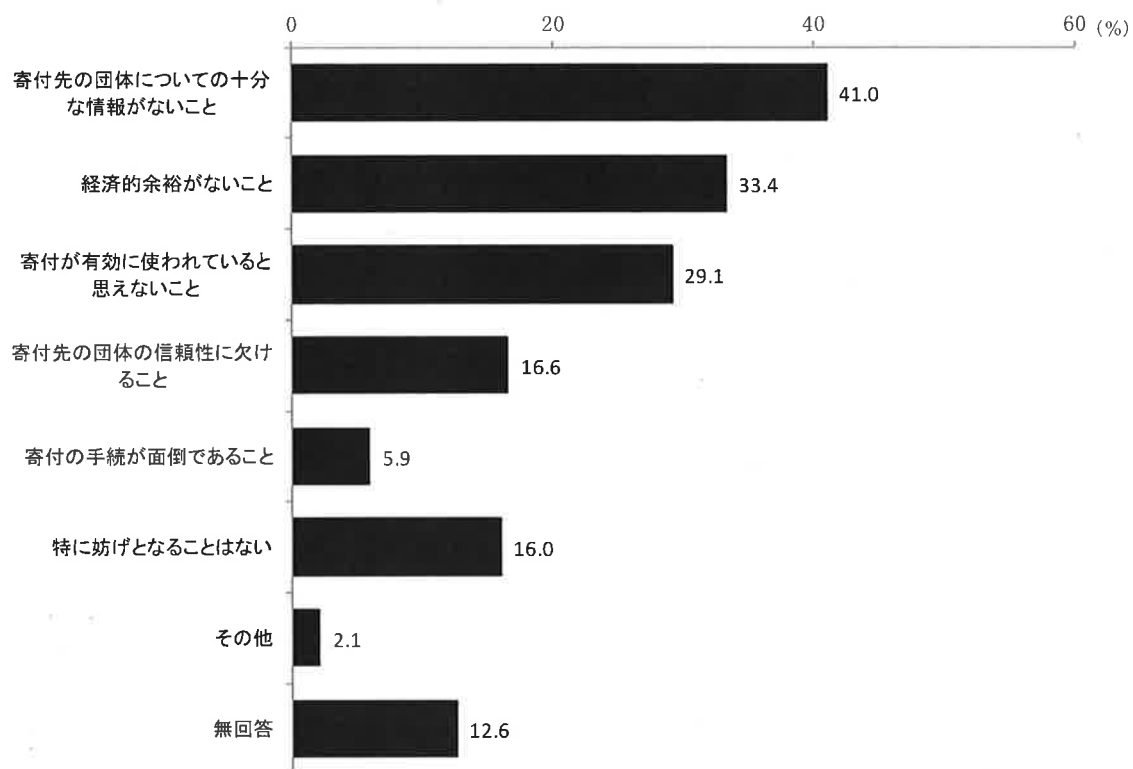


県民活動団体への寄付については、「したことがある」は16.0%、「したことがない」は75.7%となっている。

6-5. 県民活動団体への寄付の妨げとなる要因

Q6-5 あなたが、県民活動団体に寄付をするにあたり妨げとなることはありますか。

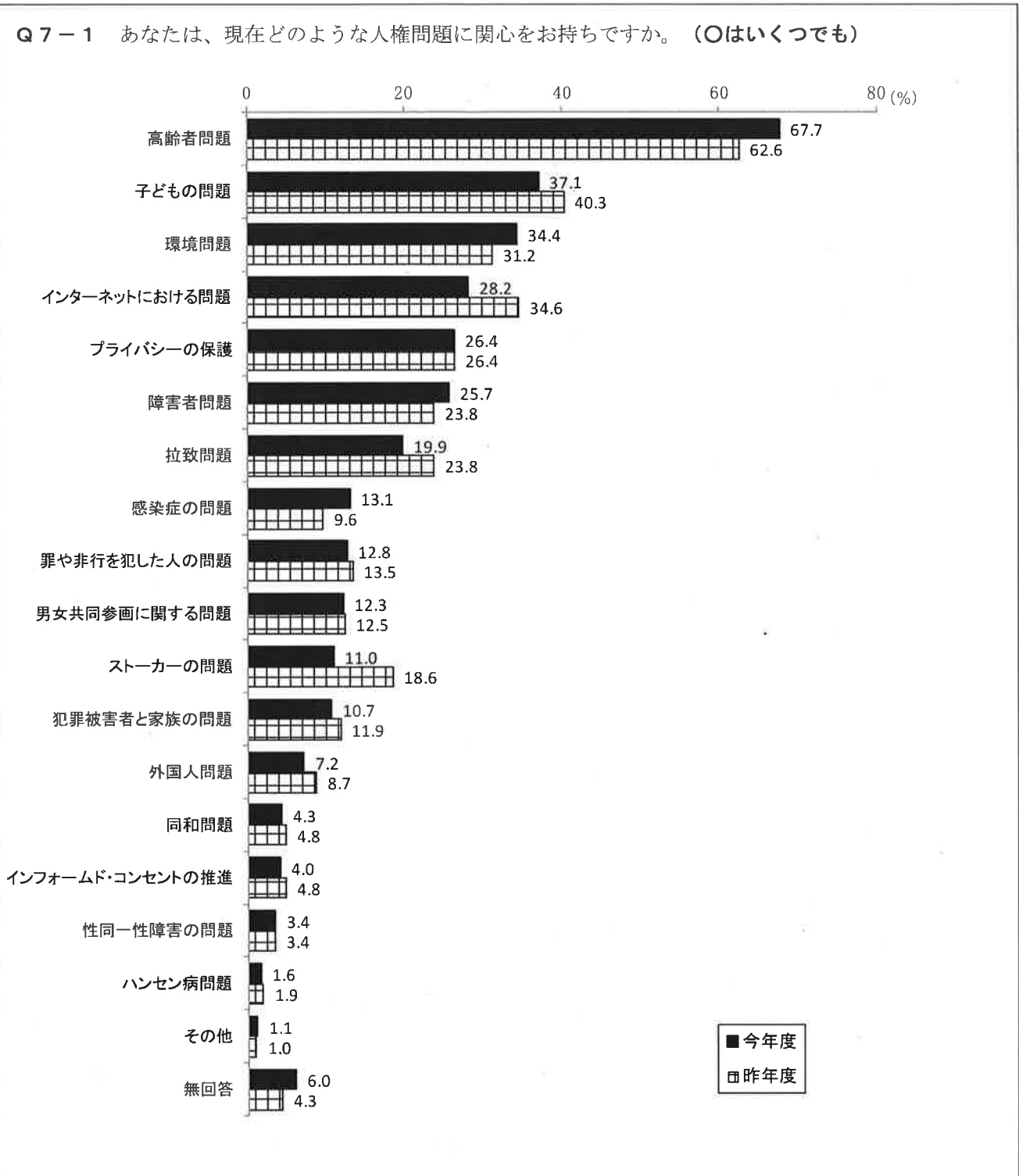
(○はいくつでも)



県民活動団体への寄付の妨げとなる要因については、「寄付先や団体についての十分な情報がないこと」が41.0%と最も高く、次いで「経済的余裕がないこと」(33.4%)、「寄付が有効に使われていると思えないこと」(29.1%)が2割を超えている。

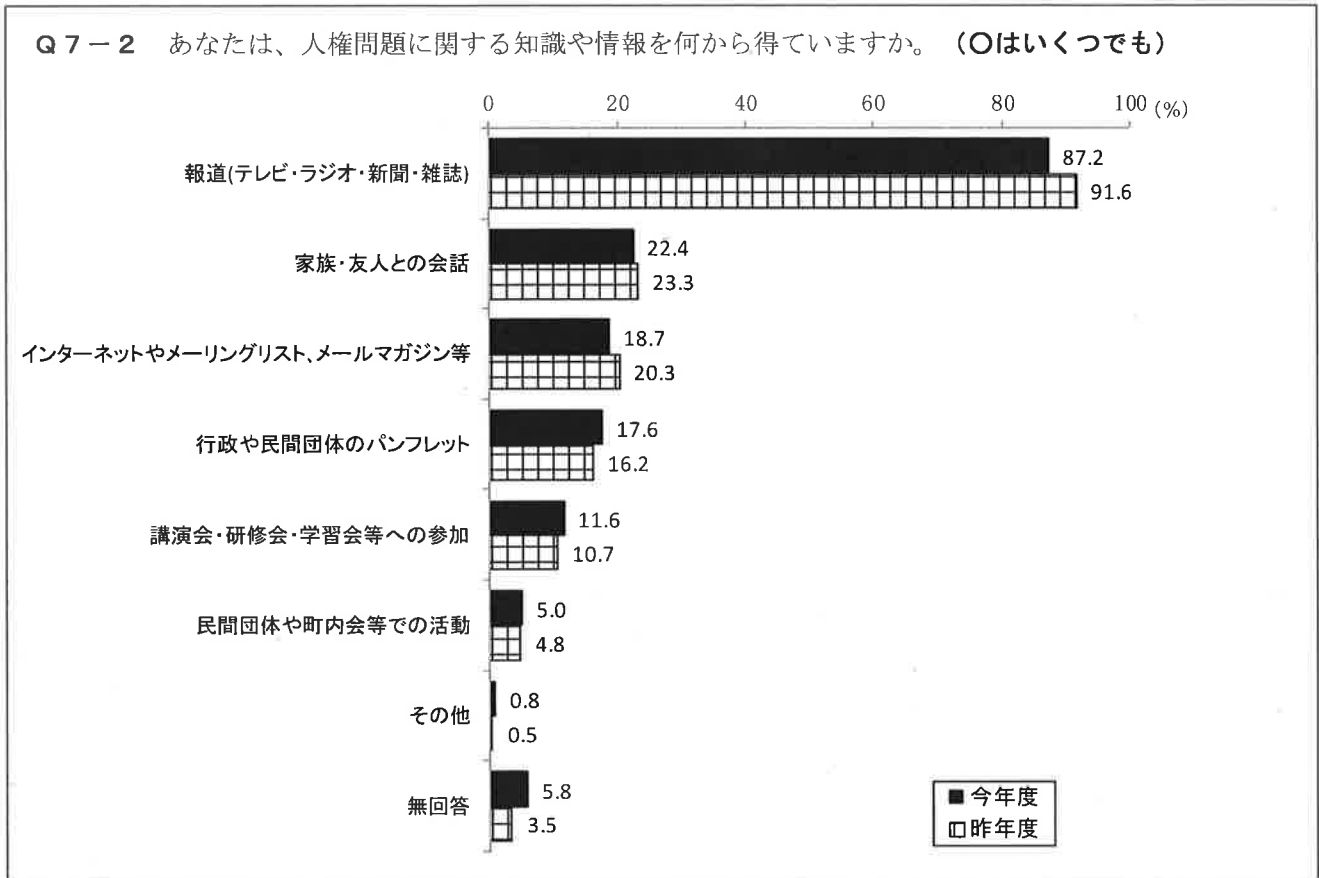
7. 関心がある人権問題

7-1. 関心がある人権問題



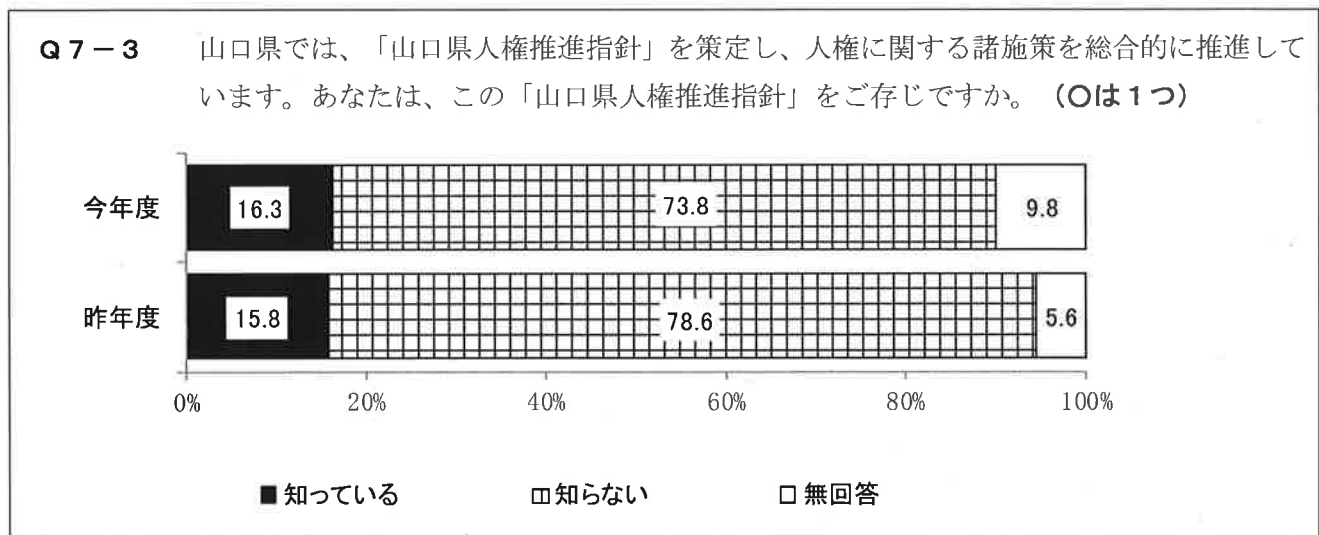
関心がある人権問題について、「高齢者問題」が67.7%と最も高く、次いで「子どもの問題」(37.1%)、「環境問題」(34.4%)、「インターネットにおける問題」(28.2%)、「プライバシーの保護」(26.4%)などの順となっている。

7-2. 人権問題に関する知識や情報の入手媒体



人権問題に関する知識や情報の入手媒体について、「報道(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌)」が87.2%と最も高く、次いで「家族・友人との会話」(22.4%)、「インターネットやメールリスト、メールマガジン等」(18.7%)などの順となっている。

7-3. 「山口県人権推進指針」の認知状況

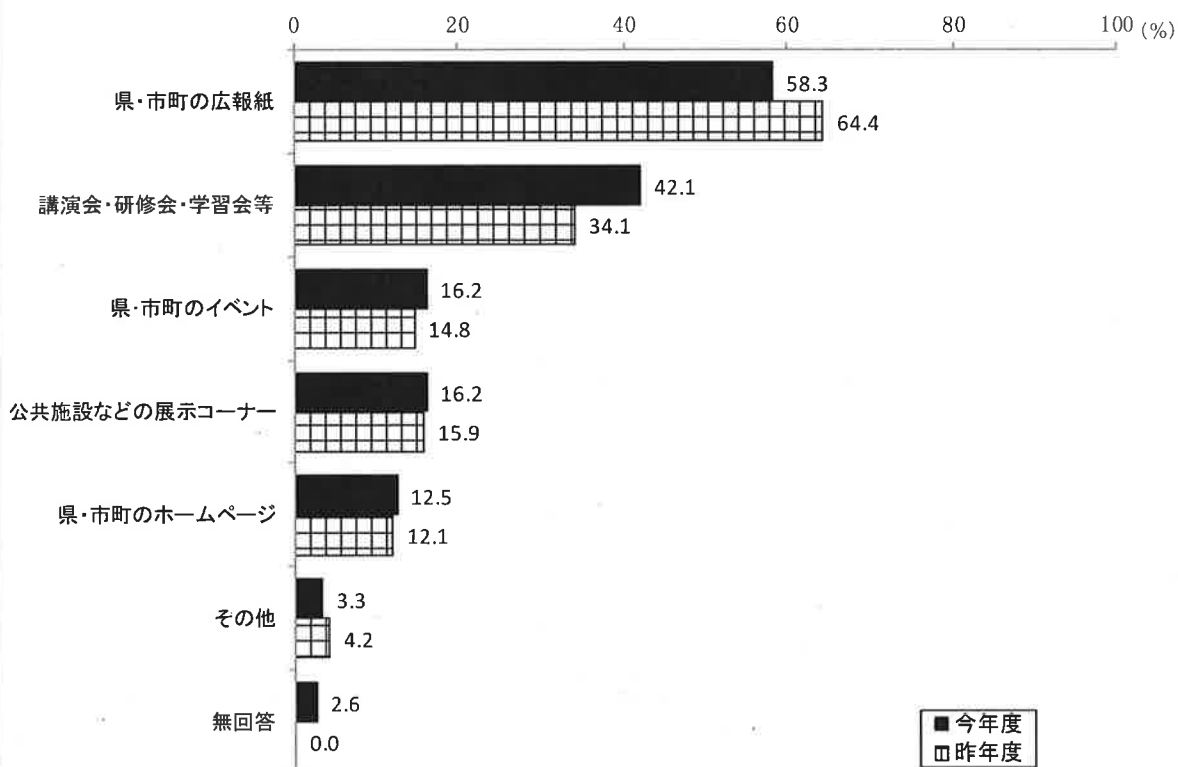


「山口県人権推進指針」の認知状況について、「知っている」が16.3%、「知らない」が73.8%となっている。

7-4. 「山口県人権推進指針」の認知媒体

【Q7-3で「知っている」と回答した方に】 (n=271)

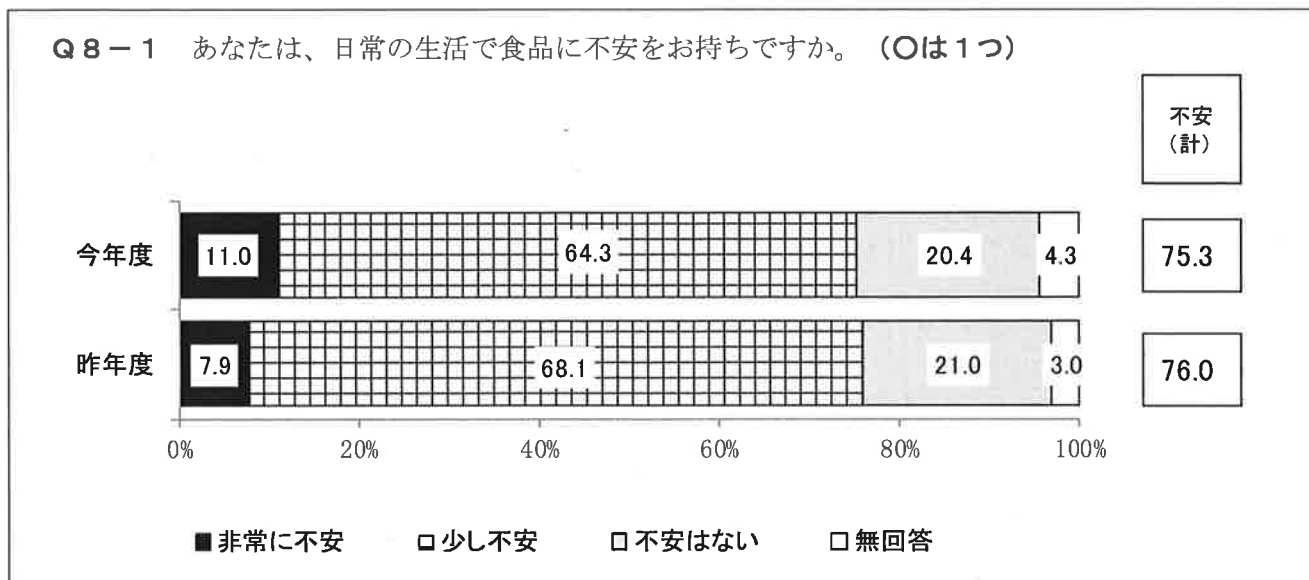
Q7-4 それは、何を通じてお知りになりましたか。(〇はいくつでも)



「山口県人権推進指針」を何を通じて知ったかについて、「県・市町の広報紙」が58.3%と最も高く、次いで「講演会・研修会・学習会等」(42.1%)、「県・市町のイベント」「公共施設などの展示コーナー」(各16.2%)の順となっている。

8. 食の安心・安全

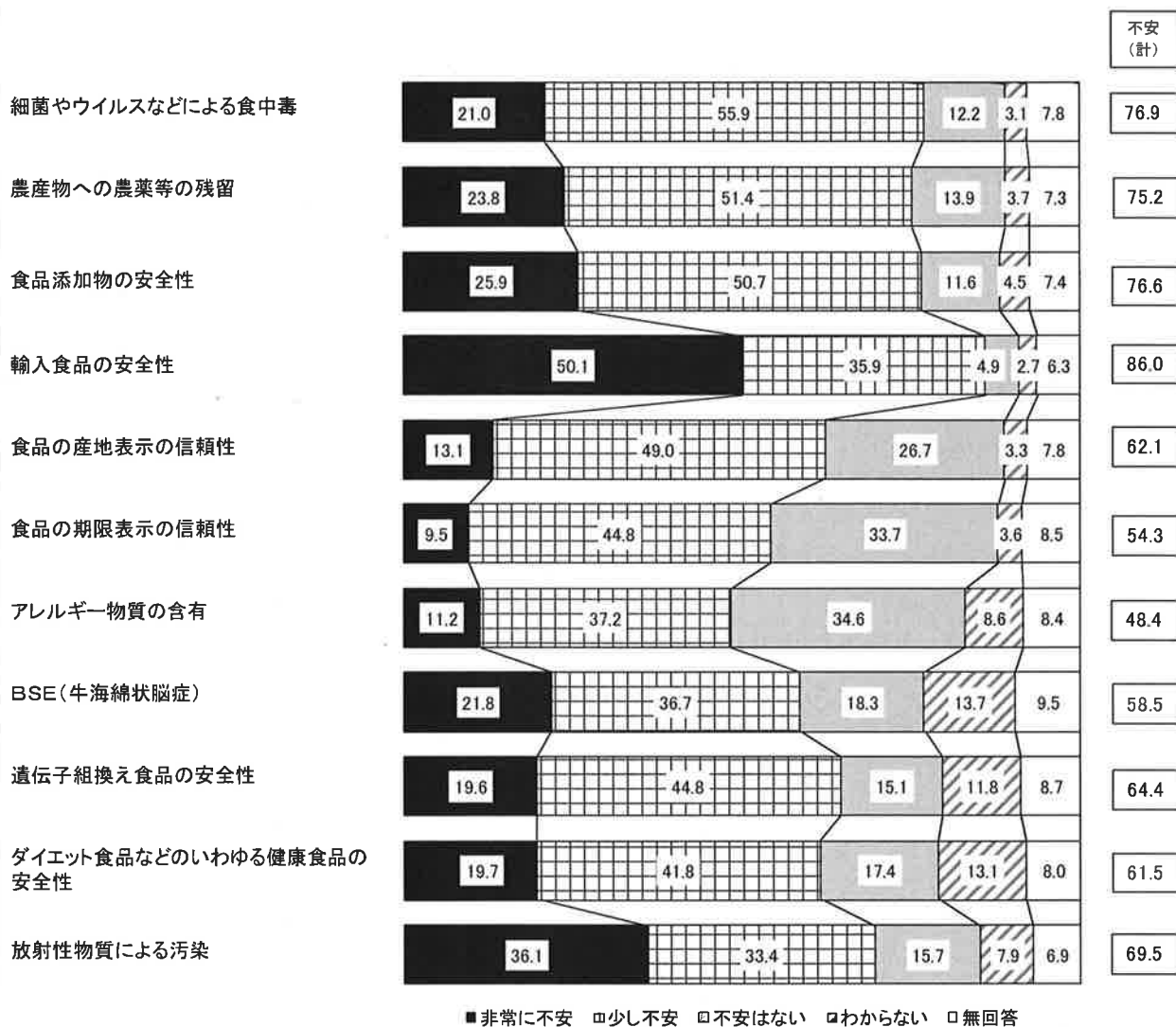
8-1. 食品に対する不安



食品に対する不安について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は75.3%と7割を超え高くなっている。昨年度と比較すると、『不安(計)』は0.7ポイント低下している。

8-2. 食品に対する不安の要因

Q8-2 あなたは食品について、どのようなことに不安をお持ちですか。
 いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

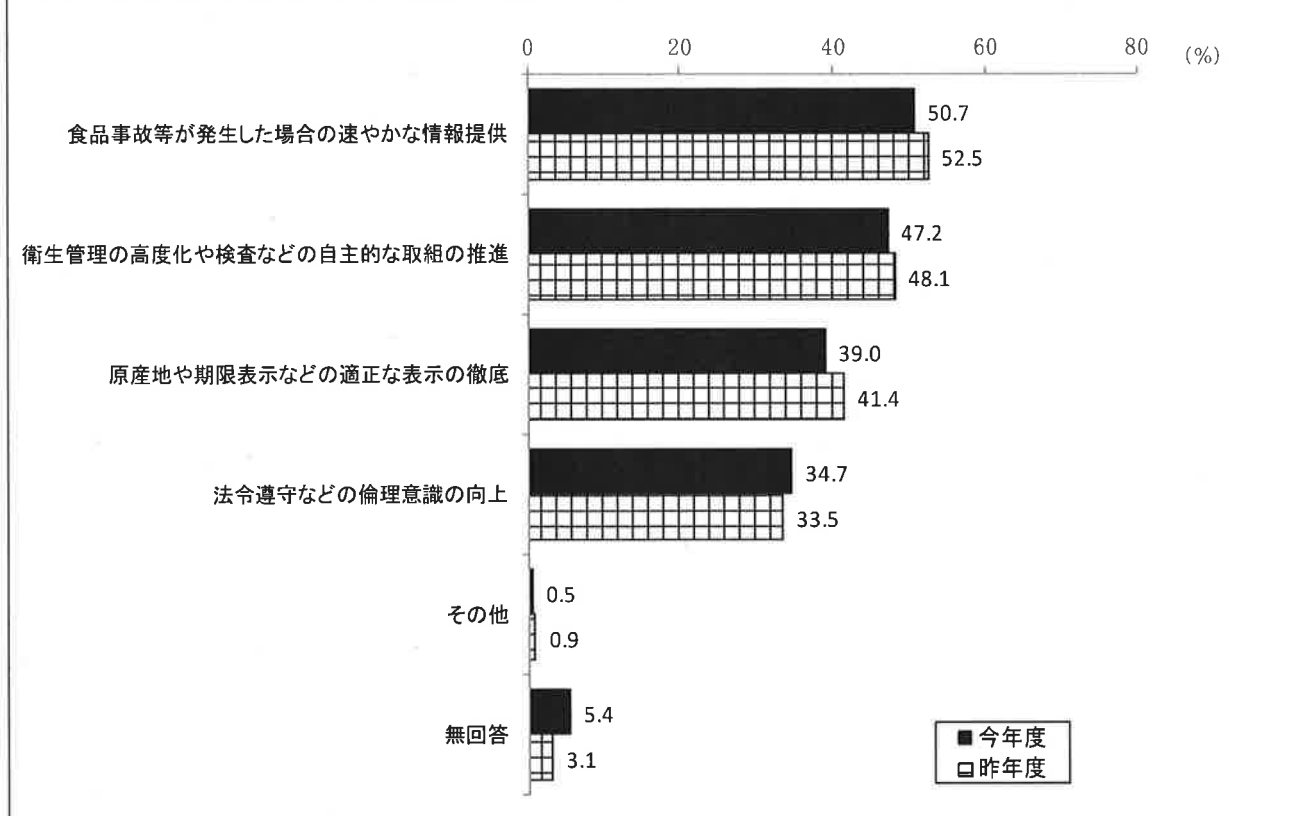


食品に対する不安の要因について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は、「輸入食品の安全性」で86.0%と最も高くなっている。また、「細菌やウイルスなどによる食中毒」(76.9%)、「食品添加物の安全性」(76.6%)、「農産物への農薬等の残留」(75.2%)も7割台と高くなっている。

8-3. 安全で安心な食生活を送るために必要な取組

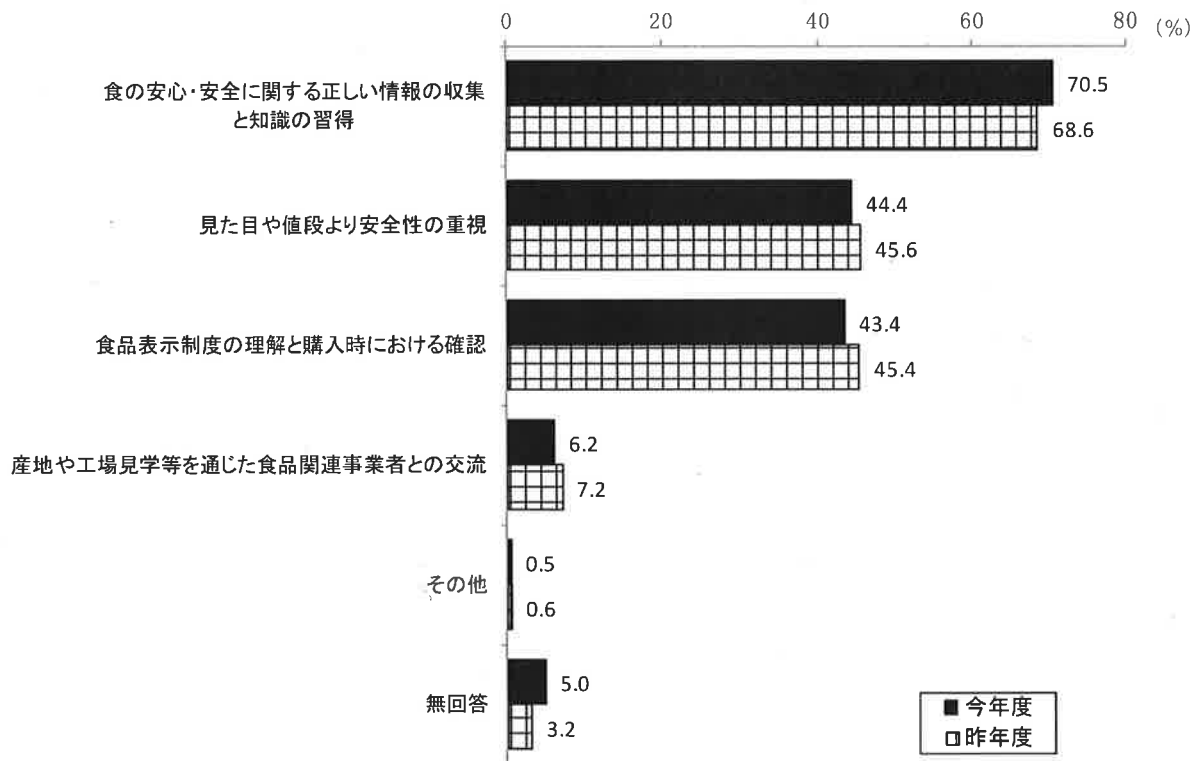
Q8-3 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」、「消費者」、「県」は、それぞれどのような取組が必要だと思いますか。

(1) 食品関連事業者に望む取組（○は2つまで）



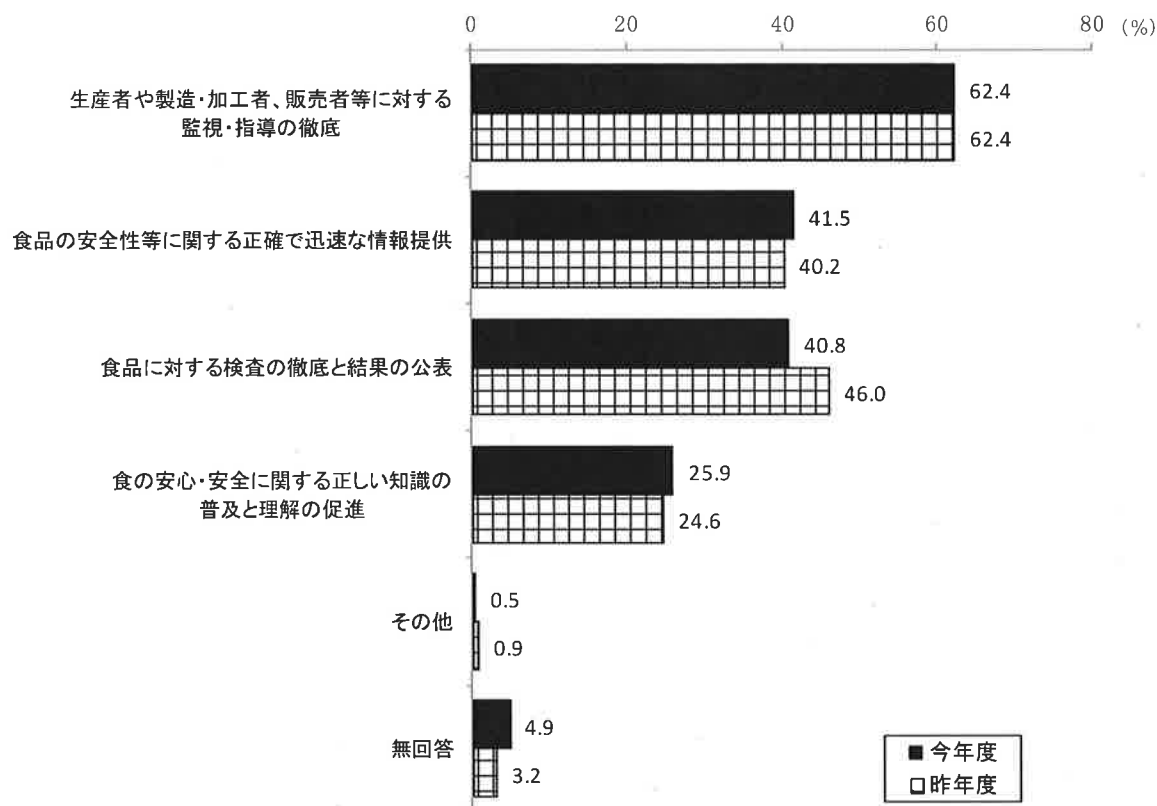
安全で安心な食生活を送るために「食品関係事業者」に望む取組について、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が50.7%と最も高くなっている。次いで「衛生管理の高度化や検査などの自主的な取組の推進」（47.2%）、「原産地や期限表示などの適正な表示の徹底」（39.0%）、「法令遵守などの倫理意識の向上」（34.7%）の順となっている。昨年度と比較すると、「法令遵守などの倫理意識の向上」が1.2ポイント上昇している。

(2) 消費者に必要な取組 (〇は2つまで)



安全で安心な食生活を送るために「消費者」に必要な取組について、「食の安心・安全に関する正しい情報の収集と知識の習得」が70.5%と最も高くなっている。また、「見た目や値段より安全性の重視」(44.4%)、「食品表示制度の理解と購入時における確認」(43.4%)も4割台と高くなっている。昨年度と比較すると、「食の安心・安全に関する正しい情報の収集と知識の習得」が1.9ポイント上昇している。

(3) 県に望む取組 (〇は2つまで)



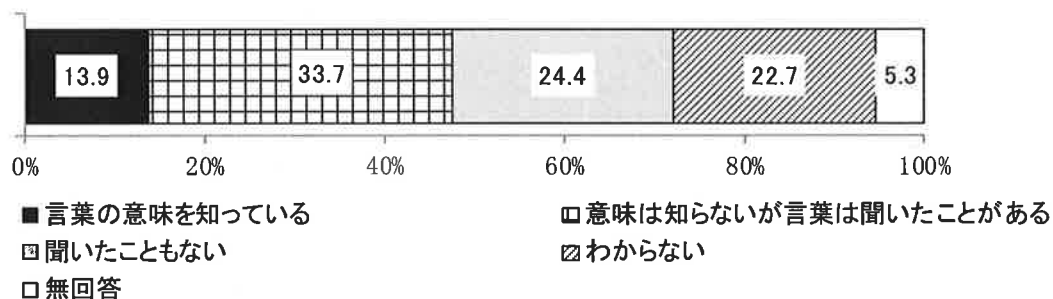
安全で安心な食生活を送るために「県」に望む取組について、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が62.4%と最も高くなっている。また、「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」(41.5%)、「食品に対する検査の徹底と結果の公表」(40.8%)も4割台と高くなっている。昨年度と比較すると、「食品に対する検査の徹底と結果の公表」が5.2ポイント低下している。

9. 生物多様性

「生物多様性」とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのことです。食料、木材、薬など、私たちが、日頃あたり前に利用しているものの多くは、生物多様性がもたらす恵みの上に成り立っています。

9-1. 「生物多様性」の認知状況

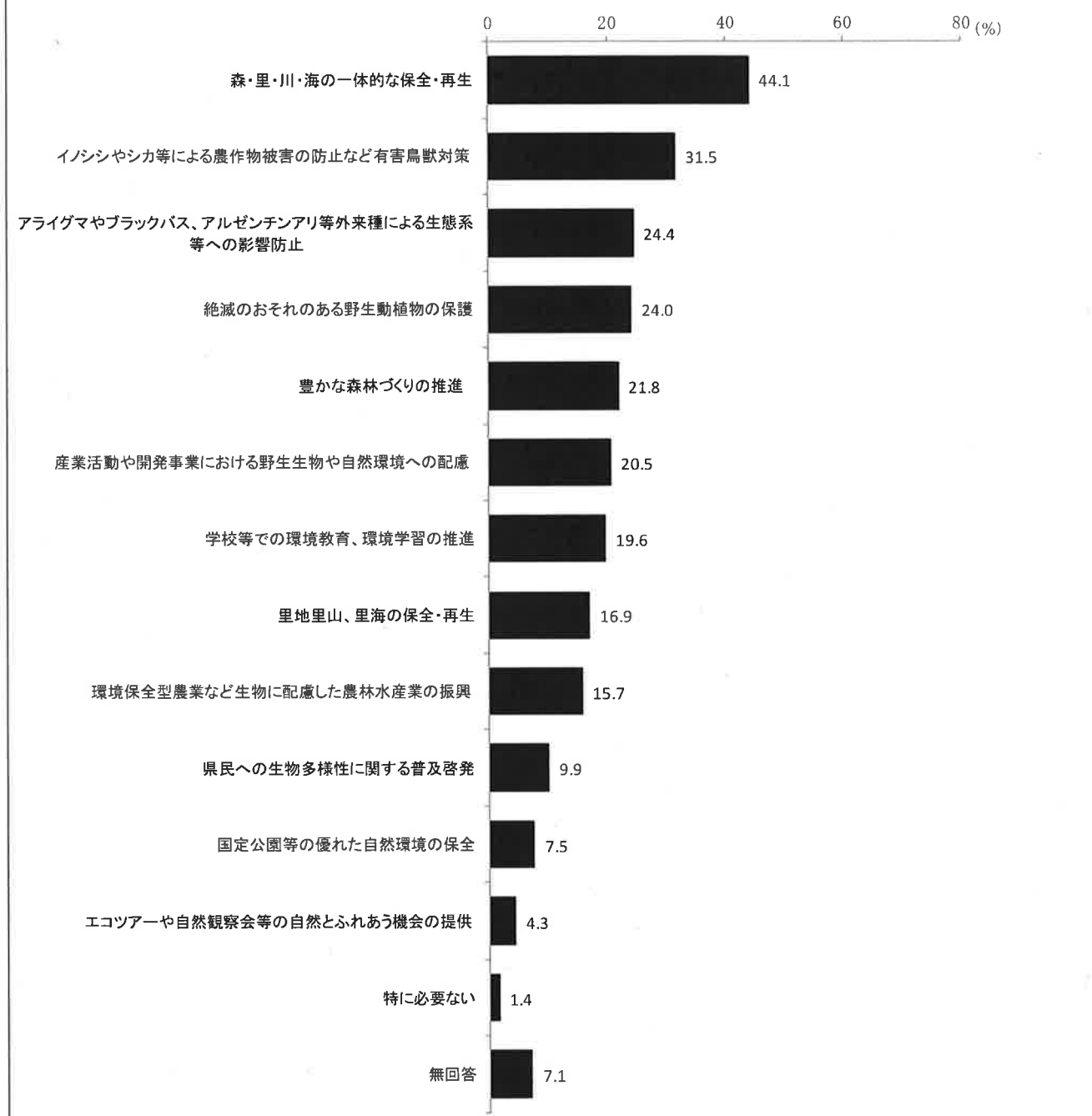
Q9-1 あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。(〇は1つ)



「生物多様性」の認知状況について、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が33.7%で最も高く、次いで「聞いたこともない」(24.4%)、「わからない」(22.7%)、「言葉の意味を知っている」(13.9%)の順となっている。

9-2. 生物多様性を守るために必要な取組

Q9-2 生物多様性を守っていくために、どのような取組が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

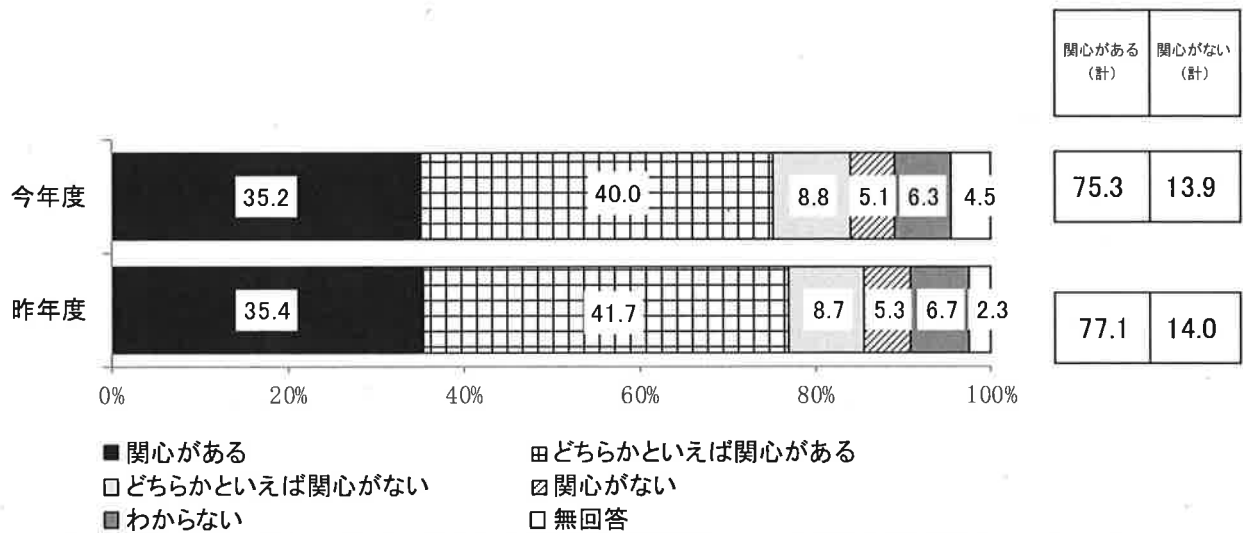


生物多様性を守るための必要な取組については、「森・里・川・海の一体的な保全・再生」が44.1%と最も高くなっている。次いで、「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」(31.5%)、「アライグマやブラックバス、アルゼンチンアリ等外来種による生態系等への影響防止」(24.4%)、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」(24.0%)、「豊かな森林づくりの推進」(21.8%)などの順となっている。

10. 食育

10-1. 「食育」に対する関心度

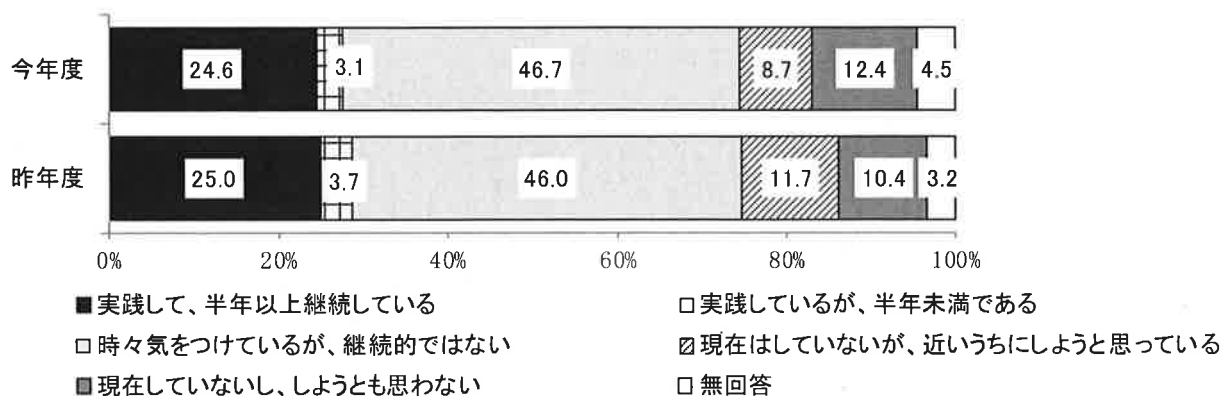
Q10-1 「食育」とは、「食」をめぐる状況の変化に伴うさまざまな問題に対処し、その解決を目指した取組をいいます。あなたは、「食育」について関心がありますか。(〇は1つ)



食育に対する関心度について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある(計)』は75.3%、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた『関心がない(計)』は13.9%となっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は1.8ポイント低下している。

10-2. メタボリックシンドロームの予防や改善のための食事・運動の実践状況

Q10-2 あなたは、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予防や改善のために、適切な食事または定期的な運動を継続的に実践していますか。（○は1つ）



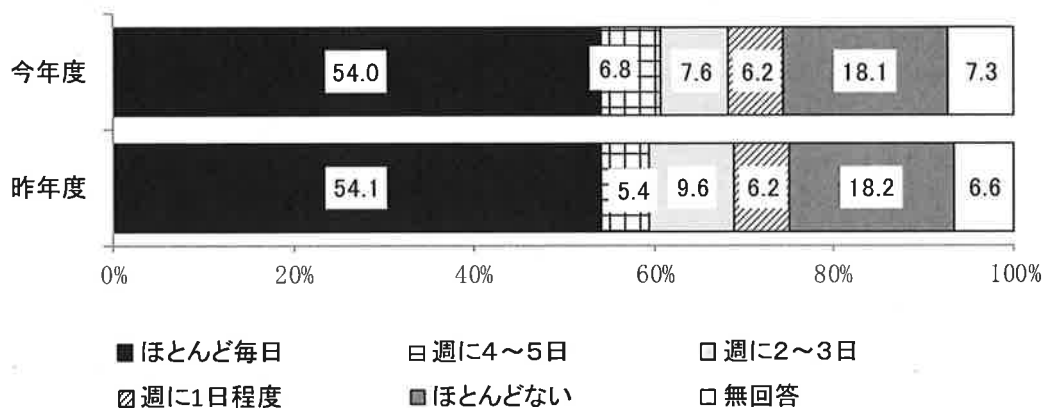
メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予防や改善のための食事・運動の実践状況について、「時々気をつけているが、継続的ではない」が46.7%と最も高く、次いで「実践して、半年以上継続している」（24.6%）となっている。昨年度と比較すると、大きな差はみられない。

10-3. 朝食・夕食を家族と一緒に食べる頻度

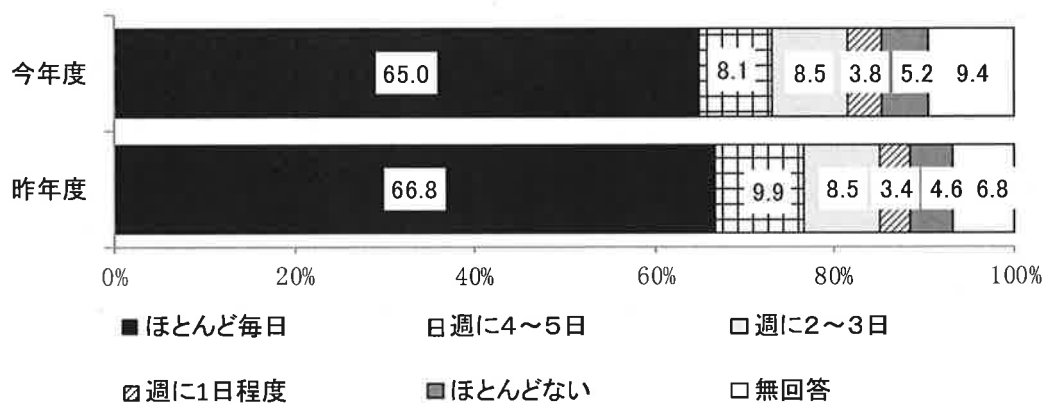
Q10-3 家族と同居している方のみお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ) (n=1,416)

朝食・夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。

【朝食】



【夕食】

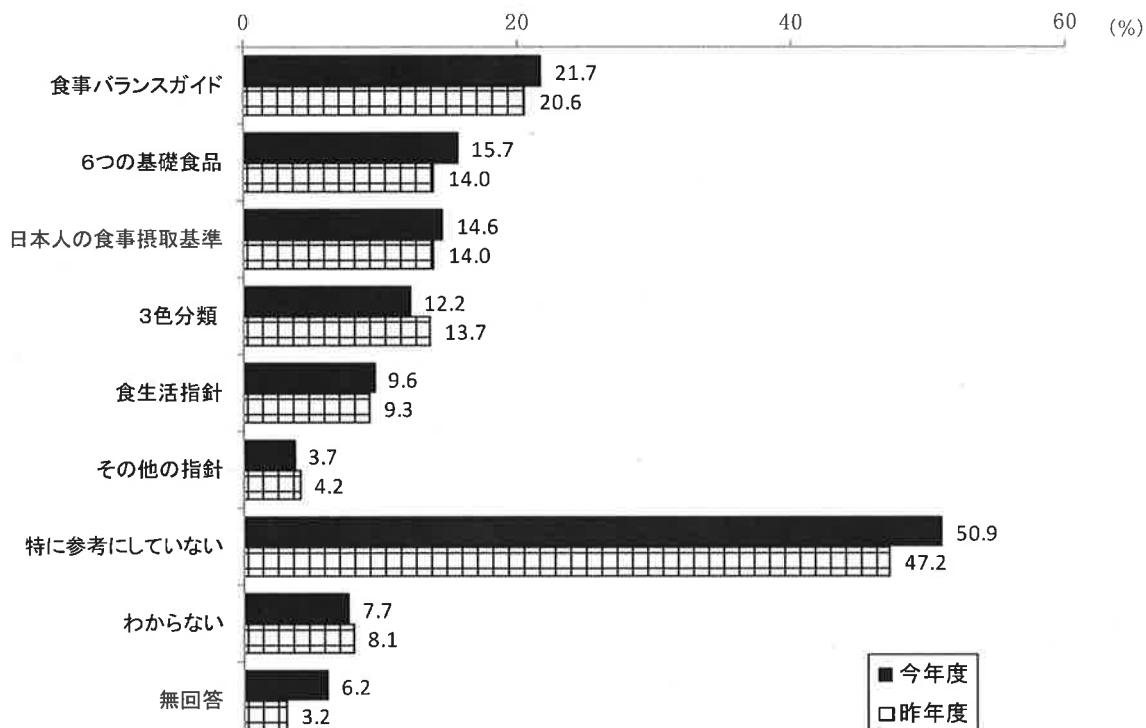


朝食を家族と一緒に食べる頻度について、「ほとんど毎日」が54.0%と最も高く、次いで「ほとんどない」(18.1%)、「週に2~3日」(7.6%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「週に2~3日」は2.0ポイント低下している。

夕食を家族と一緒に食べる頻度について、「ほとんど毎日」が65.0%と最も高く、次いで「週に4~5日」(8.1%)、「週に2~3日」(8.5%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「週に4~5日」は1.8ポイント低下している。

10-4. 日頃参考にしている指針等

Q10-4 あなたは、日頃の健全な食生活を実践するため、どのような指針等を参考にしていますか。
(〇は3つまで)

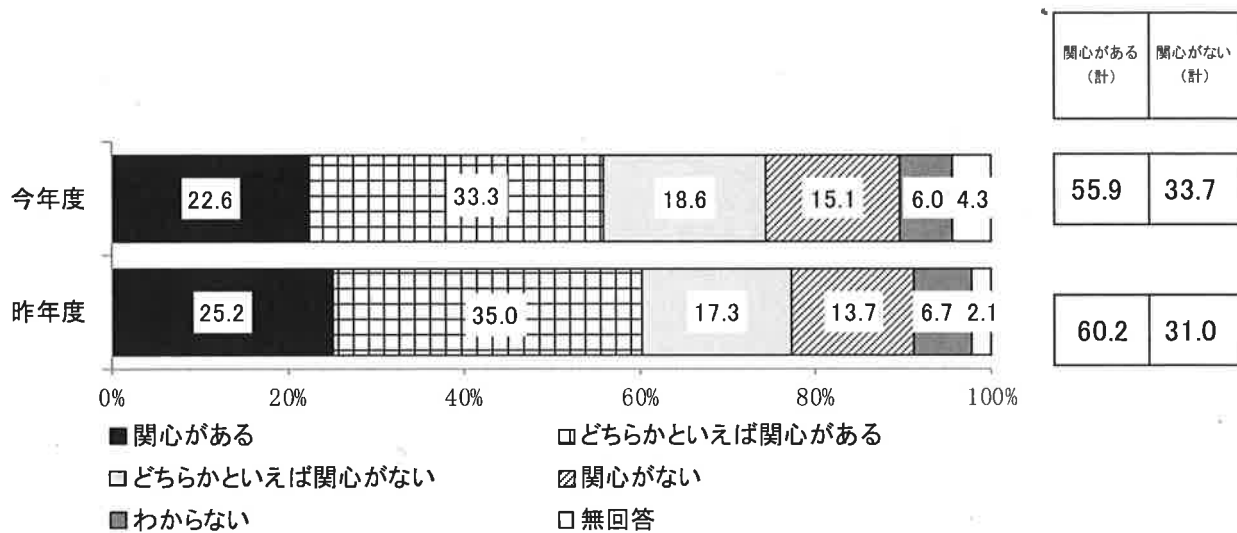


- ※1 「食事バランスガイド」：「何を」「どれだけ」食べたらよいかをわかりやすくコマで示したもの
- ※2 「食生活指針」：望ましい食生活を実践するための指針
- ※3 「日本人の食事摂取基準」：1日に必要なエネルギーや栄養素の摂取量の目安を示したもの
- ※4 「6つの基礎食品」：栄養成分の類似している食品を6群に分類したもの
- ※5 「3色分類」：食品の体内での主な働きを3つに分けて、主な食品を分類したもの

日頃参考にしている指針等について、「食事バランスガイド」が21.7%で最も高く、次いで「6つの基礎食品」(15.7%)、「日本人の食事摂取基準」(14.6%)、「3色分類」(12.2%)は1割を超えているが、「特に参考にしていない」が50.9%と最も高くなっている。昨年度と比較すると、「6つの基礎食品」が1.7ポイント上昇している。

10-5. 食べ方への関心度

Q10-5 あなたは、噛み方、味わい方といった食べ方に関心がありますか。(〇は1つ)

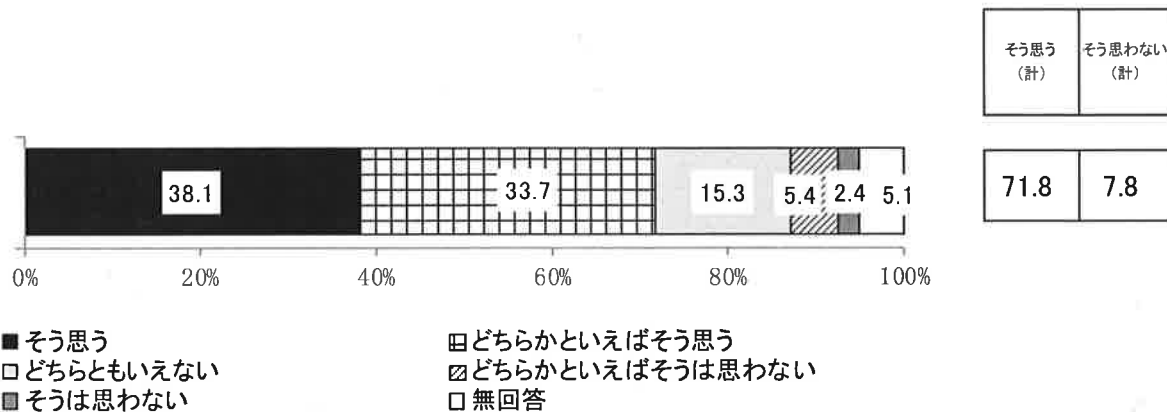


噛み方、味わい方といった食べ方への関心度について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある(計)』は55.9%、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた『関心がない(計)』は33.7%となっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は4.3ポイント低下している。

1 1. 観光振興の推進

1 1 - 1. 観光振興の重要性

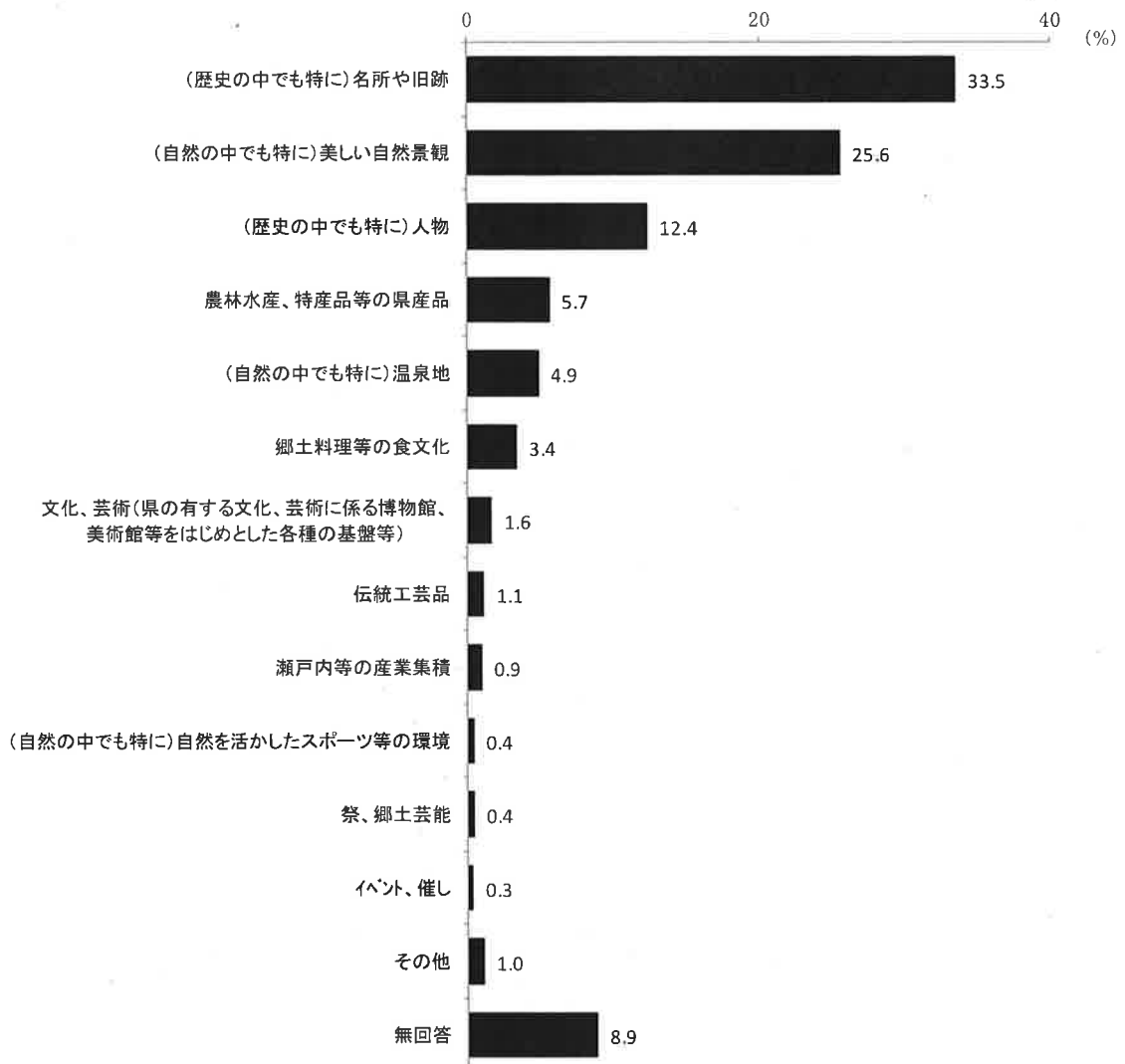
Q11-1 人口減少・少子高齢化が続く中、国内外からの交流人口の拡大を通じて、賑わいと活気を創出し、雇用をはじめとした地域の活力を維持、発展させていくための手段として観光は今後、ますますその重要性を増すと考えますか。(〇は1つ)



観光振興の重要性については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は71.8%、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『そうは思わない(計)』7.8%となっている。

11-2. 山口県の自慢

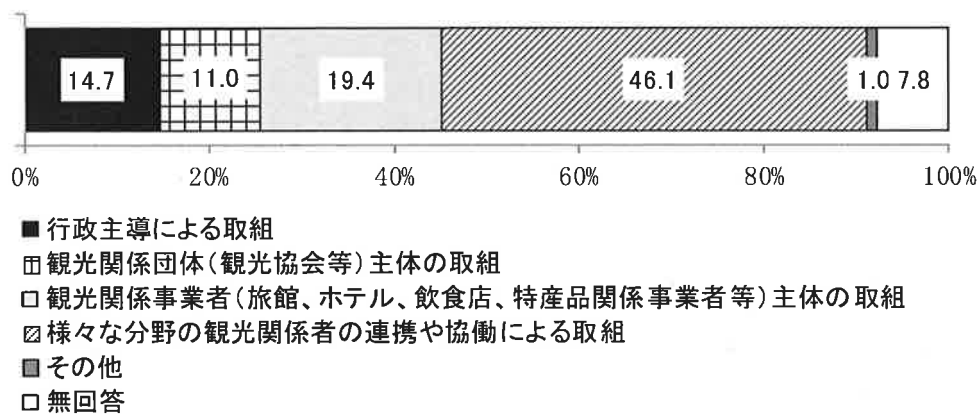
Q11-2 あなたが、山口県の観光について、県外の方へ自信や誇りをもって説明や案内をしたら、何（どの分野）を一番の自慢としますか。（〇は1つ）



山口県の自慢については、「(歴史の中でも特に)名所や旧跡」が33.5%で最も高く、次いで、「(自然の中でも特に)美しい自然景観」(25.6%)、「(歴史の中でも特に)人物」(12.4%)の順となっている。

11-3. 山口県の観光振興に必要な取組

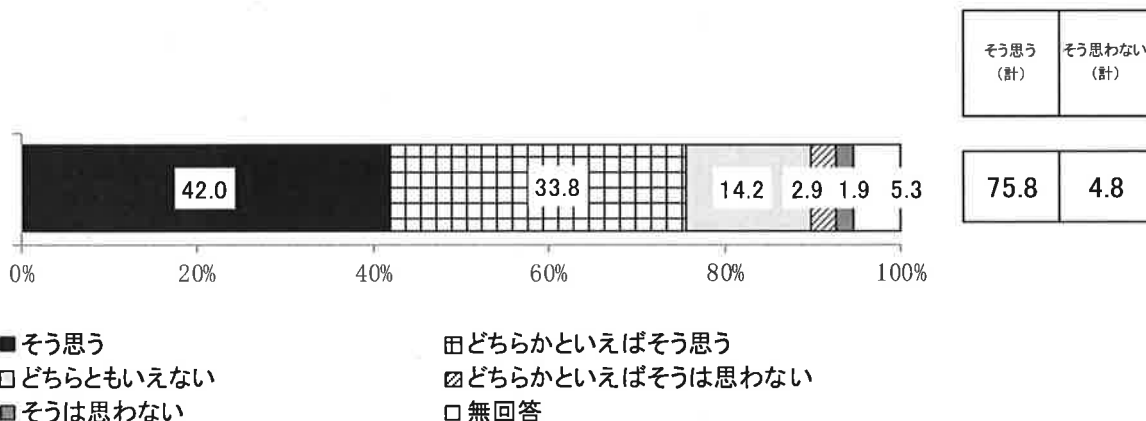
Q11-3 観光の地域間競争が高まる中、山口県が観光地、旅行先として選ばれ、リピーターを確保していくためには、県内の観光地が魅力的であるとともに、観光客にとって高い満足感を得てもらう必要がありますが、それを達成するためには、以下のどの取組が最も重要と考えますか。(〇は1つ)



山口県の観光振興に必要な取組については、「様々な分野の観光関係者の連携や協働による取組」が46.1%で最も高く、次いで「観光関係事業者(旅館、ホテル、飲食店、特産品関係事業者等)主体の取組」(19.4%)、「行政主導による取組」(14.7%)、「観光関係団体(観光協会等)主体の取組」(11.0%)の順となっている。

11-4. おもてなしの意識の重要性

Q11-4 山口県の観光振興を図る上では、観光関係者だけでなく、生活者としての県民が、観光客の方々とのふれあい等を通じて温かい歓迎、おもてなしの意識を表すことが重要と考えますか。(〇は1つ)

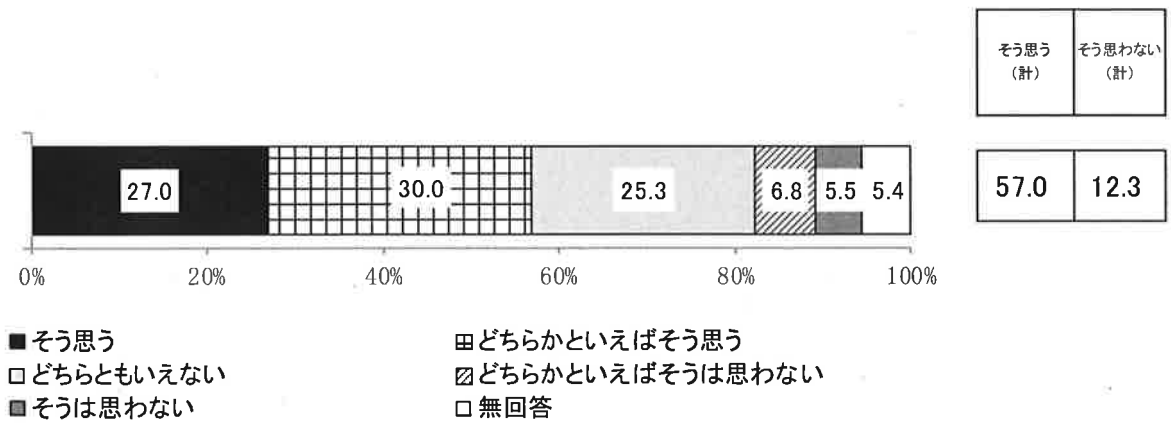


おもてなしの意識の重要性については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は75.8%、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『そうは思わない(計)』4.8%となっている。

11-5. 「おもてなし活動」実践の意向

Q11-5 あなたは、今後、県民としてなんらかの「おもてなし活動」を実践していきたいと思えますか。(〇は1つ)

※「おもてなし活動」：この設問では、観光客への積極的なあいさつや声掛け、道案内、観光地の清掃活動、観光ガイドグループ等への参加による観光ガイド、地域の観光資源の創出、磨き上げ等の観光地域づくりへの参加等の活動のことをいいます。

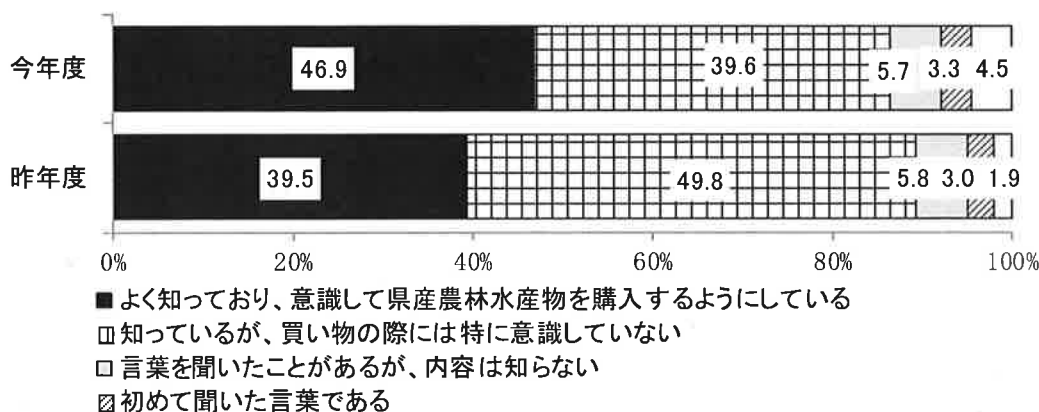


「おもてなし活動」実践の意向については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う (計)』は57.0%、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『そうは思わない (計)』12.3%となっている。

1 2. 地産・地消の推進

1 2-1. 「地産・地消」の認知状況

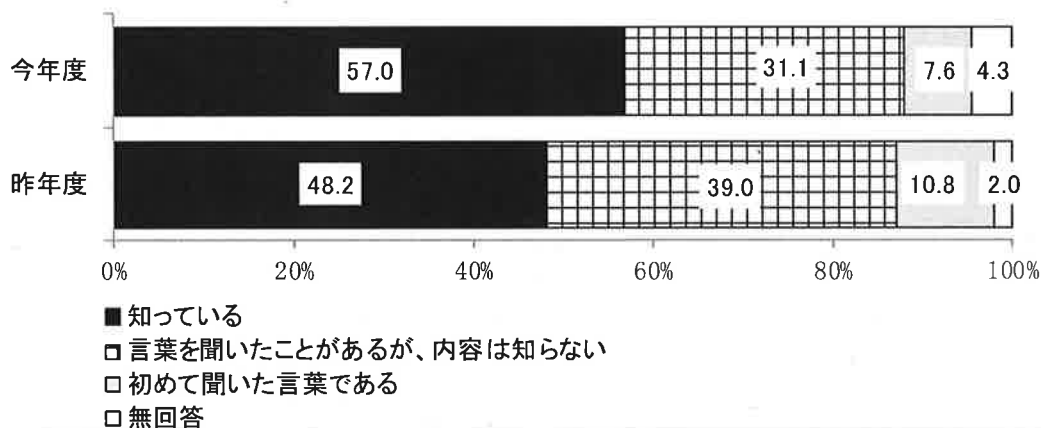
Q12-1 県内で生産された農林水産物を県内で消費する「地産・地消」についてご存じですか。
(〇は1つ)



「地産・地消」の認知状況について、「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が46.9%と最も高く、次いで「知っているが、買い物の際には特に意識していない」(39.6%)となっている。

1 2-2. 「やまぐちブランド」の認知状況

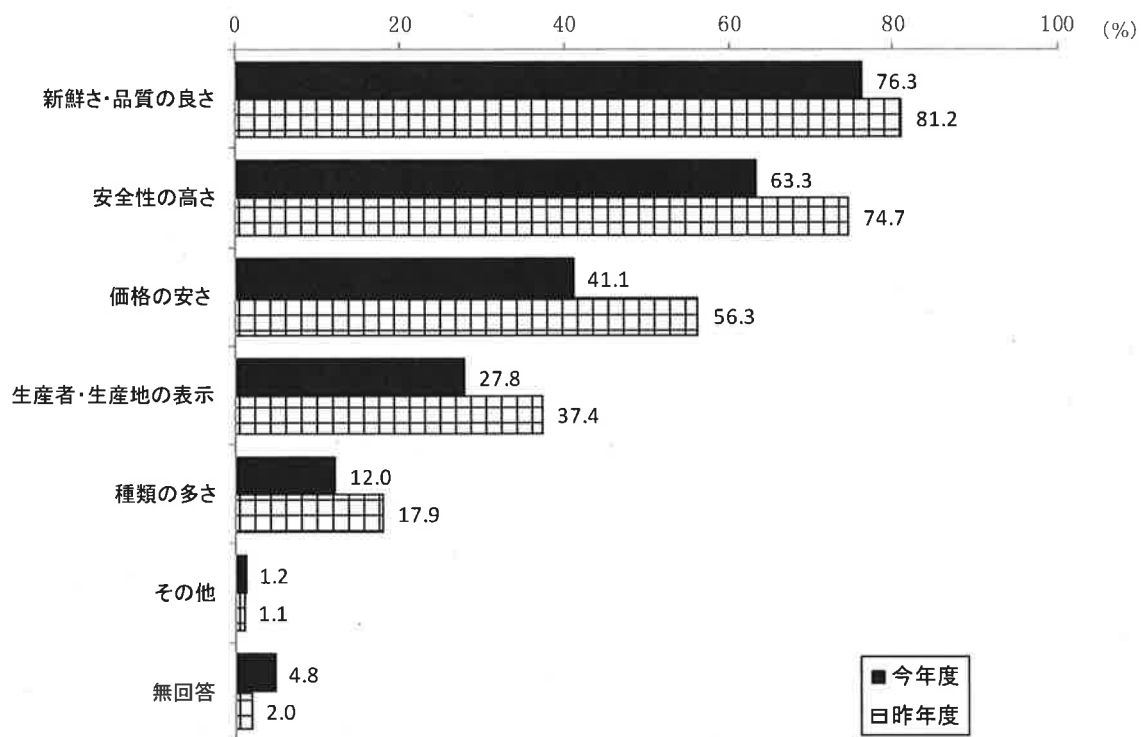
Q12-2 県産農林水産物等の需要拡大を進めるため、味や品質に優れる「やまぐちブランド」の育成に取り組んでおり、現在、「萩たまげなす」や「やまぐちのあまだい」など66商品が登録されています。あなたは、この「やまぐちブランド」をご存じですか。(〇は1つ)



「やまぐちブランド」の認知状況について、「知っている」が57.0%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」(31.1%)、「初めて聞いた言葉である」(7.6%)の順となっている。

12-3. 県産農林水産物に期待すること

Q12-3 あなたは、県産農林水産物にどのようなことを期待しますか。(〇はいくつでも)

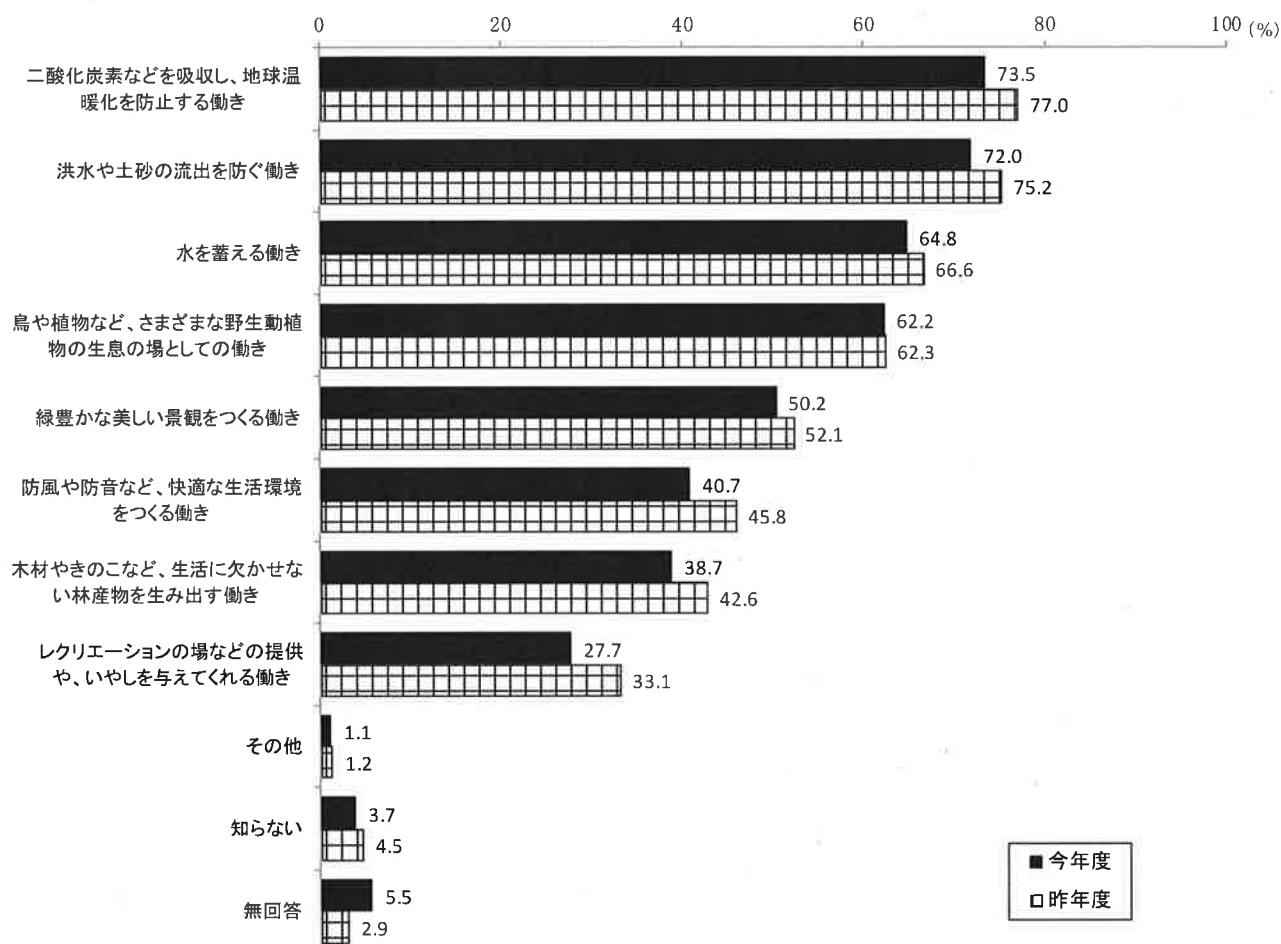


県産農林水産物に期待することについて、「新鮮さ・品質の良さ」が76.3%と最も高く、次いで「安全性の高さ」(63.3%)、「価格の安さ」(41.1%)の順となっている。

13. やまぐち森林づくり県民税

13-1. 森林の持っている働き

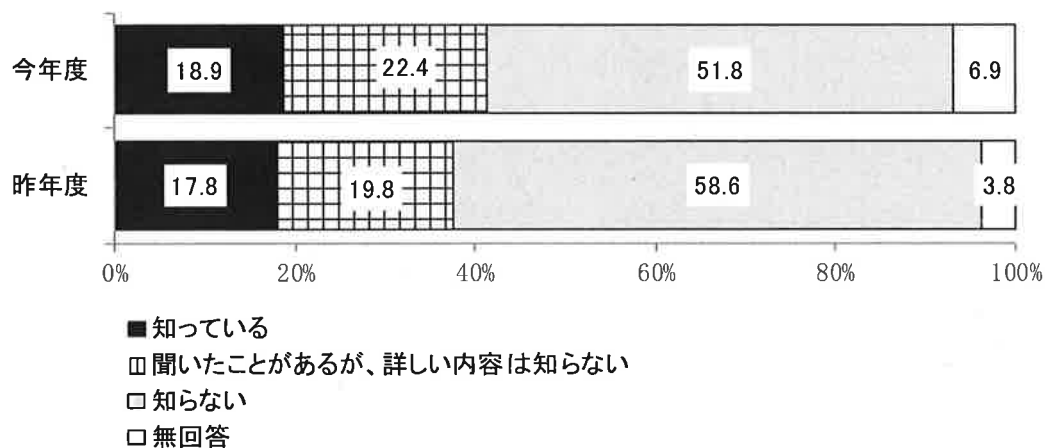
Q13-1 近年、森林の荒廃が問題となっていますが、あなたは、森林の持っているどのような働きをご存じですか。(〇はいくつでも)



森林の持っている働きで知っているものについて、「二酸化炭素などを吸収し、地球温暖化を防止する働き」が73.5%で最も高く、次いで「洪水や土砂の流出を防ぐ働き」(72.0%)、「水を蓄える働き」(64.8%)、「鳥や植物など、さまざまな野生動植物の生息の場としての働き」(62.2%)、「緑豊かな美しい景観をつくる働き」(50.2%)、「防風や防音など、快適な生活環境をつくる働き」(40.7%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「レクリエーションの場などの提供や、いやしを与えてくれる働き」が5.4ポイント低下し、「防風や防音など、快適な生活環境をつくる働き」が5.1ポイント低下している。

13-2. 「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況

Q13-2 山口県では、荒廃した森林の再生を図るため、平成17年度から「やまぐち森林づくり県民税」を導入しました。あなたは、この「やまぐち森林づくり県民税」をご存じですか。
(〇は1つ)

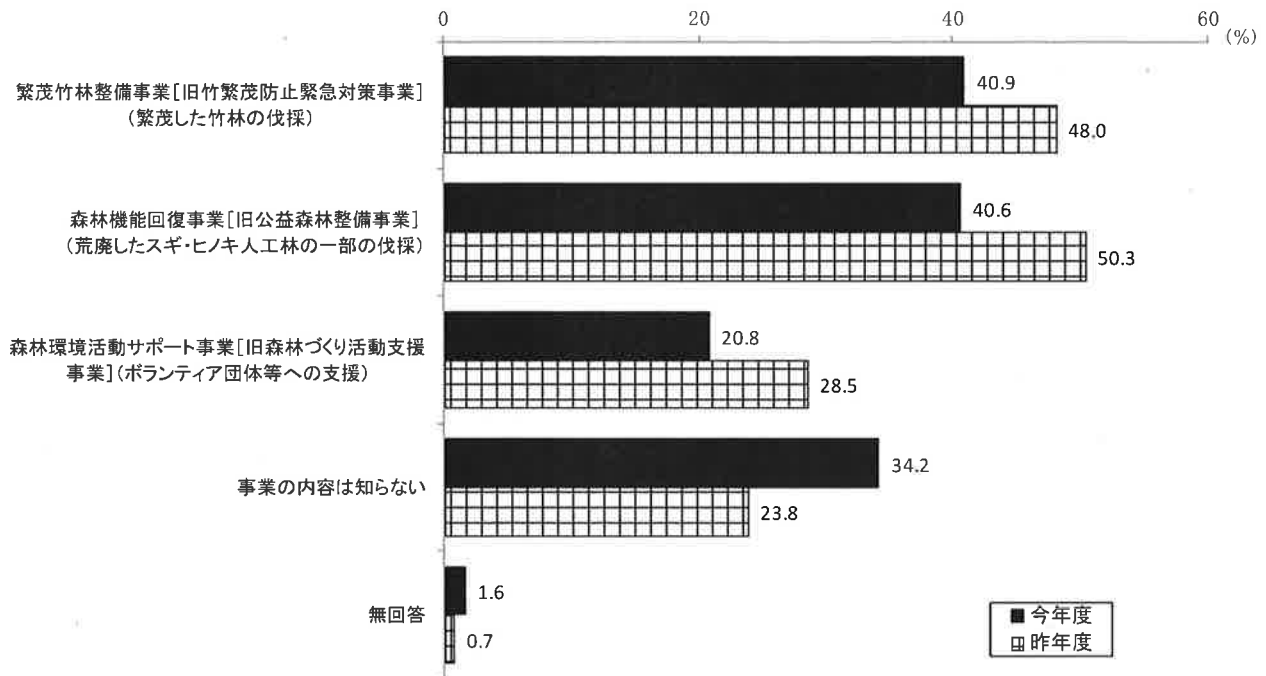


「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況について、「知っている」が18.9%、「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」が22.4%、「知らない」が51.8%となっている。

13-3. 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容

【Q13-2で「1. 知っている」と回答した方に】(n=313)

Q13-3 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、どの事業の内容をご存じですか。
(〇はいくつでも)

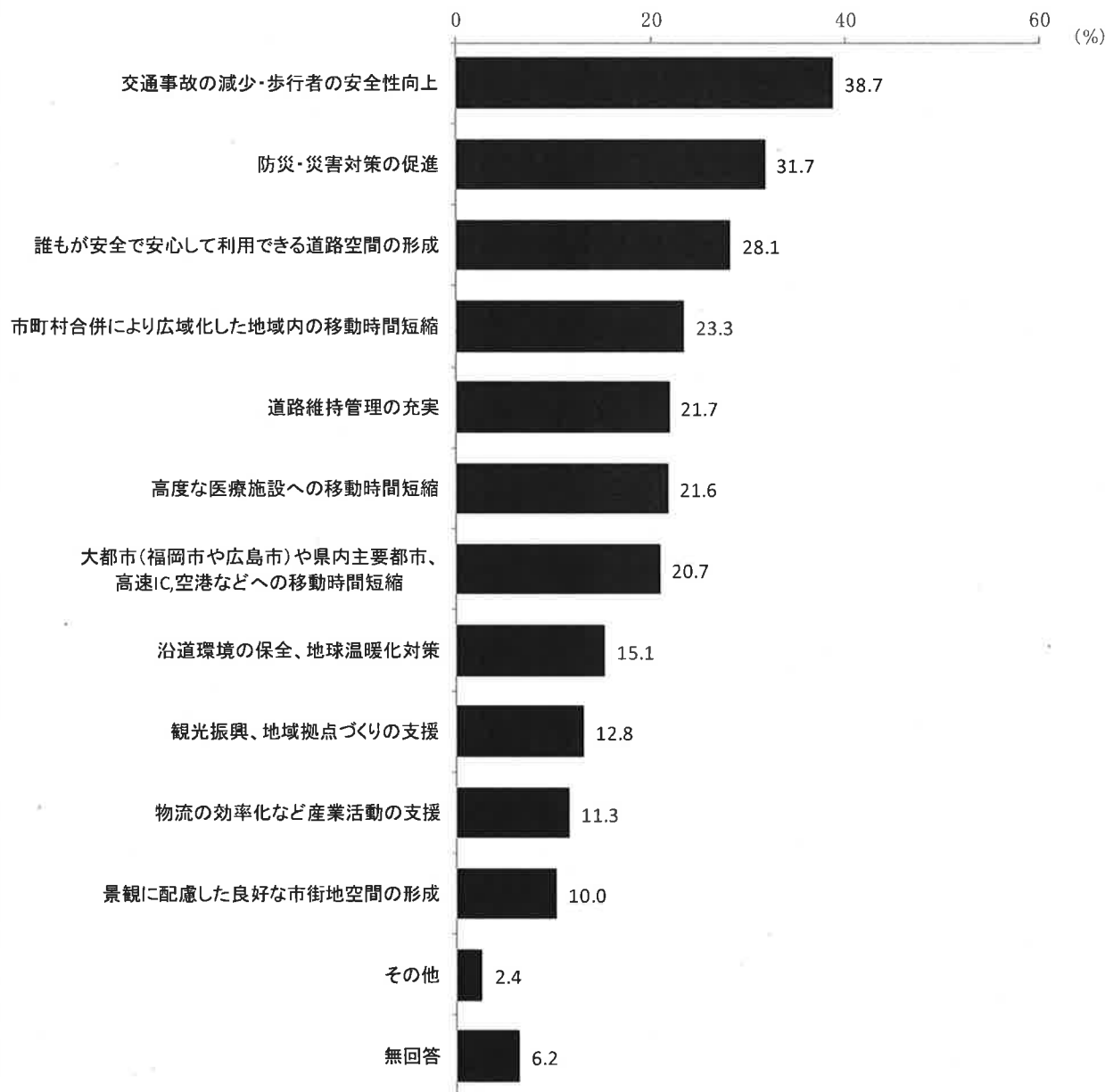


Q13-2で「やまぐち森林づくり県民税」を「知っている」と回答された方に、知っている「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容について質問すると、「繁茂竹林整備事業[旧竹繁茂防止緊急対策事業]（繁茂した竹林の伐採）」が40.9%と最も高く、次いで「森林機能回復事業[旧公益森林整備事業]（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」(40.6%)、「森林環境活動サポート事業[旧森林づくり活動支援事業]（ボランティア団体等への支援）」(20.8%)の順となっている。昨年度と比較すると、「事業の内容は知らない」は10.4ポイント上昇し、「森林機能回復事業[旧公益森林整備事業]（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」は9.7ポイント低下している。

1 4. 道路の整備

1 4-1. 今後の道路整備に重要なこと

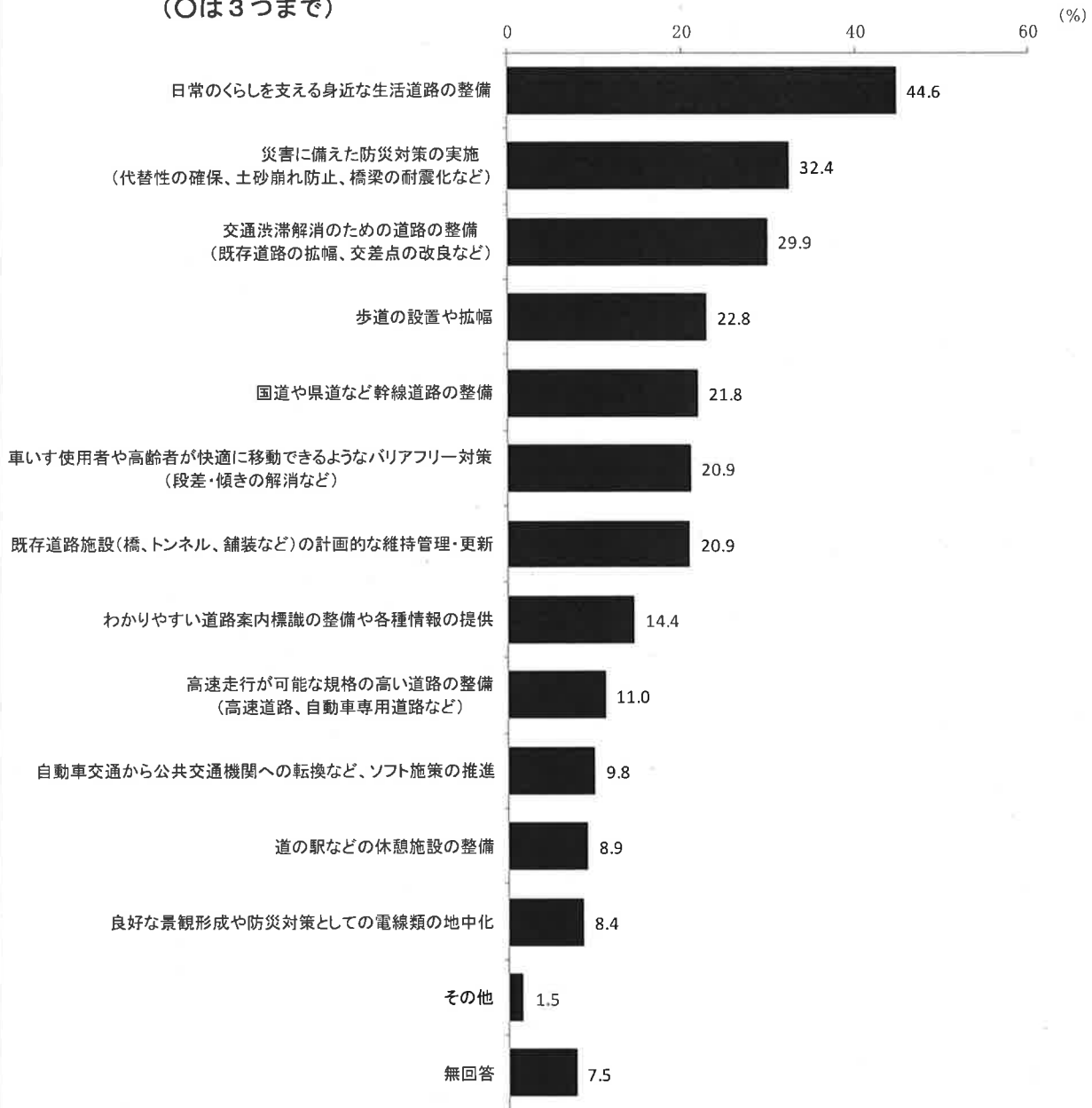
Q14-1 あなたは、今後の道路整備を進めていくにあたって、どのようなことが重要だと思われますか。(〇は3つまで)



今後の道路整備に重要なことについては、「交通事故の減少・歩行者の安全性向上」が38.7%と最も高く、次いで、「防災・災害対策の促進」(31.7%)、「誰もが安全で安心して利用できる道路空間の形成」(28.1%)、「市町村合併により広域化した地域内の移動時間短縮」(23.3%)、「道路維持管理の充実」(21.7%)などの順となっている。

14-2. 今後、整備が必要と思われること

Q14-2 上記を取り組む上で、あなたが、今後、整備が必要と思われるのはどのようなことですか。
(〇は3つまで)



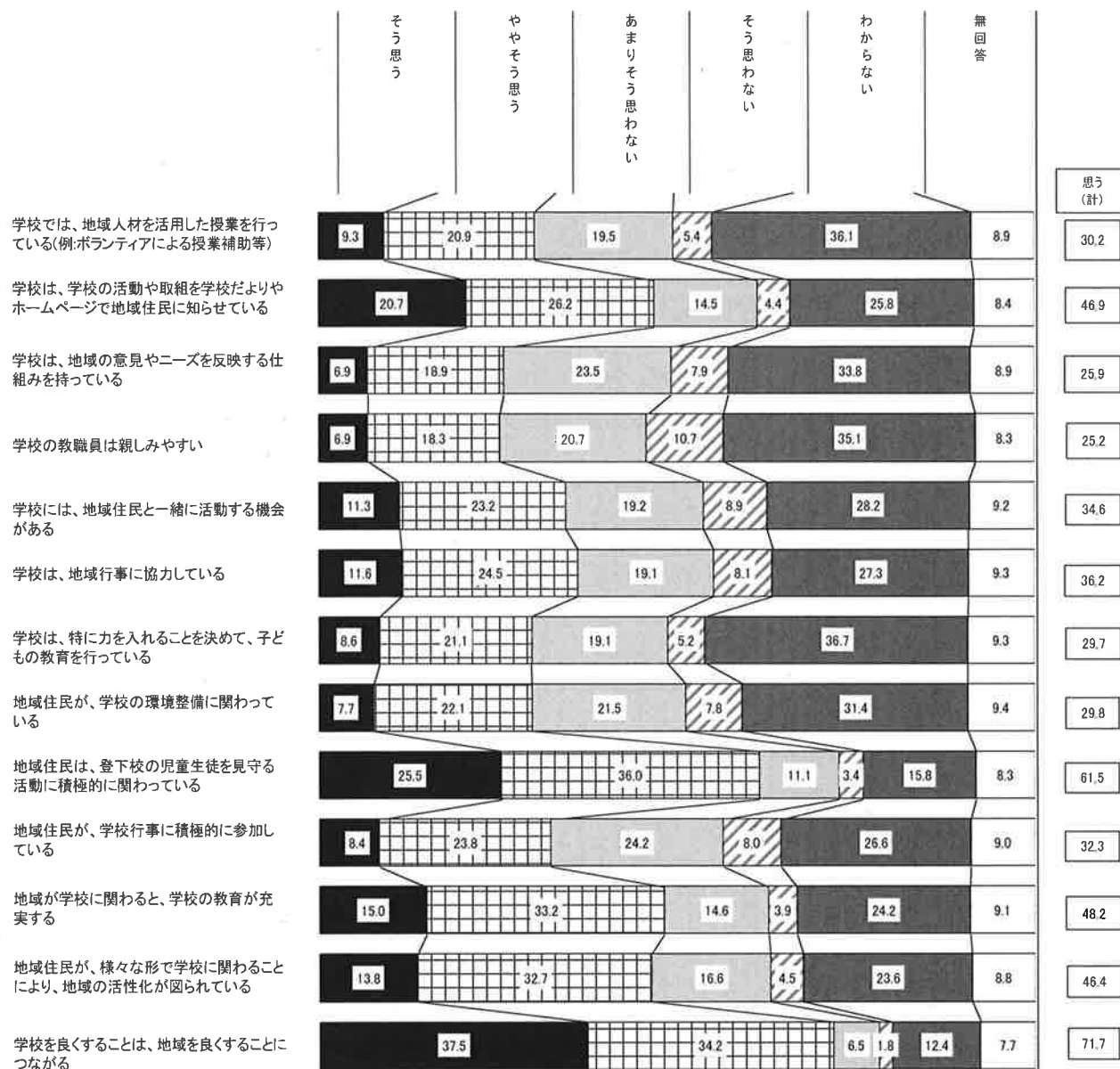
今後、整備が必要と思われることについては、「日常のくらしを支える身近な生活道路の整備」が44.6%と最も高く、次いで、「災害に備えた防災対策の実施（代替性の確保、土砂崩れ防止、橋梁の耐震化など）」（32.4%）、「交通渋滞解消のための道路の整備（既存道路の拡幅、交差点の改良など）」（29.9%）、「歩道の設置や拡幅」（22.8%）などの順となっている。

15. コミュニティ・スクール

15-1. 地域と学校との関係

Q15-1 あなたがお住まいの地域と地域にある学校（小学校、中学校いずれについてでも可）との関係について、あなたはどの程度そう思いますか。そう思う程度を教えてください。

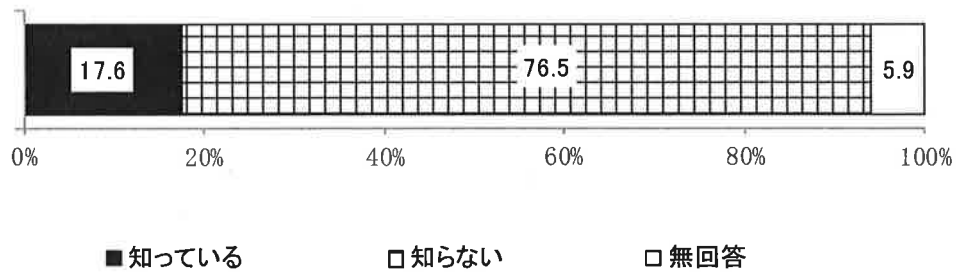
（○はそれぞれ1つずつ）



地域と学校との関係については、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う(計)』の割合は、「学校を良くすることは、地域を良くすることにつながる」が71.7%で最も高く、次いで、「地域住民は、登下校の児童生徒を見守る活動に積極的に関わっている」(61.5%)、「地域が学校に関わると、学校の教育が充実する」(48.2%)などの順になっている。

15-2. コミュニティ・スクールの認知状況

Q15-2 山口県では、コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりを推進しています。あなたは、この「コミュニティ・スクール」をご存知ですか。（○は1つ）



コミュニティ・スクールの認知度については、「知っている」が17.6%、「知らない」が76.5%となっている。

